

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	平成29年8月25日
【事業年度】	第63期（自平成28年6月1日至平成29年5月31日）
【会社名】	株式会社テーオーホールディングス
【英訳名】	T.O. Holdings CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小笠原 康正
【本店の所在の場所】	北海道函館市港町三丁目18番15号
【電話番号】	(0138)45-3911（代表）
【事務連絡者氏名】	専務執行役員 小山 直樹
【最寄りの連絡場所】	北海道函館市港町三丁目18番15号
【電話番号】	(0138)45-3911（代表）
【事務連絡者氏名】	専務執行役員 小山 直樹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期
決算年月	平成25年5月	平成26年5月	平成27年5月	平成28年5月	平成29年5月
売上高 (千円)	35,619,524	38,919,672	39,132,949	40,021,539	40,187,520
経常利益又は経常損失 (千円)	515,513	507,889	252,658	79,348	139,960
親会社株主に帰属する当期 純利益又は親会社株主に帰 属する当期純損失(千円)	212,198	365,412	4,382	68,011	503,406
包括利益 (千円)	521,859	385,942	36,843	349,452	463,225
純資産額 (千円)	4,004,134	4,118,024	4,091,749	3,679,098	3,172,443
総資産額 (千円)	28,990,796	30,091,279	29,189,504	28,870,101	30,098,813
1株当たり純資産額 (円)	640.22	658.44	654.26	588.28	506.46
1株当たり当期純利益金額 又は1株当たり当期純損失 金額(円)	33.93	58.43	0.70	10.87	80.40
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	13.8	13.7	14.0	12.7	10.5
自己資本利益率 (%)	5.6	9.0	0.1	1.8	14.7
株価収益率 (倍)	22.08	10.73	970.49	59.68	9.29
営業活動によるキャッ シュ・フロー (千円)	1,329,992	1,248,234	657,865	942,473	1,056,004
投資活動によるキャッ シュ・フロー (千円)	680,812	621,141	584,412	1,079,152	1,672,097
財務活動によるキャッ シュ・フロー (千円)	1,609,714	251,959	1,809,361	148,739	1,106,320
現金及び現金同等物の期末 残高 (千円)	1,291,920	1,667,052	1,099,969	814,550	1,304,778
従業員数 (名)	696	652	794	853	783
[外、平均臨時雇用者数]	[422]	[522]	[578]	[495]	[525]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第62期及び第63期は1株当たり当期純損失金額であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期
決算年月	平成25年 5月	平成26年 5月	平成27年 5月	平成28年 5月	平成29年 5月
売上高 (千円)	29,958,320	30,544,743	29,274,896	28,350,719	27,622,765
経常利益又は経常損失 (千円)	334,574	316,699	492,230	54,043	96,849
当期純利益又は当期純損失 (千円)	182,158	237,304	96,002	49,647	609,376
資本金 (千円)	1,775,640	1,775,640	1,775,640	1,775,640	1,775,640
発行済株式総数 (株)	8,926,896	8,926,896	8,926,896	8,926,896	8,926,896
純資産額 (千円)	3,801,203	3,998,862	3,806,210	3,636,012	3,012,580
総資産額 (千円)	26,373,685	26,662,341	25,963,167	25,223,774	26,475,756
1株当たり純資産額 (円)	602.23	633.55	603.04	576.09	477.31
1株当たり配当額 (円)	9.00	10.00	10.00	10.00	10.00
(内1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額 又は1株当たり当期純損失 金額(円)	28.86	37.60	15.21	7.87	96.55
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	14.4	15.0	14.7	14.4	11.4
自己資本利益率 (%)	5.1	6.1	2.5	1.3	18.3
株価収益率 (倍)	25.95	16.68	44.71	82.51	7.74
配当性向 (%)	31.2	26.6	65.7	127.1	10.4
従業員数 (名)	527	481	513	551	502
[外、平均臨時雇用者数]	[331]	[431]	[526]	[443]	[480]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第61期及び第63期は1株当たり当期純損失金額であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【沿革】

年月	変遷の内容
昭和25年5月	北海道函館市において木材販売及び衣料品販売の個人経営「小笠原商店」を創業
昭和30年1月	資本金100万円をもって「株式会社小笠原商店」を設立
昭和37年4月	北海道函館市に小笠原不動産株式会社を設立
昭和47年9月	北海道函館市に南北海道木住ローン株式会社（平成7年2月 株式会社エスエヌ・ファンドに社名変更、平成12年6月 株式会社テーオー保険サービスに社名変更、平成23年2月 株式会社テーオー総合サービスに社名変更）を設立（現・連結子会社）
昭和50年5月	商号を株式会社テーオー小笠原に変更
昭和55年1月	北海道函館市に株式会社テーオースイミングスクールを設立
昭和55年3月	北海道夕張市に株式会社夕張フローリング製作所を設立
昭和63年11月	アメリカ合衆国ニューハンプシャー州にT.O.Forest Products, Inc.（平成6年10月 ニューヨーク州に移転）を設立
平成元年6月	株式会社テーオーハウス及び東京ゴールド木材株式会社を吸収合併し、従来の木材部、デパート部を木材事業部、流通事業部に改組するとともに、新たに統括管理本部、住宅事業部、保険事業部を設置し、5事業部体制とした。 本店所在地を北海道函館市松川町より函館市港町へ移転
平成2年6月	テーオーアイエム株式会社及び株式会社東北テーオーハウスを吸収合併
平成3年1月	株式を店頭登録銘柄として社団法人日本証券業協会に登録
平成4年10月	北海道北見市の北見ベニヤ株式会社に資本参加
平成5年10月	北海道函館市の小泉建設株式会社に資本参加（現・連結子会社）
平成15年4月	株式会社ミカドフローリング製作所を吸収合併
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成17年6月	北海道函館市に株式会社テーオーファシリティーズを設立
平成19年3月	株式会社夕張フローリング製作所と株式会社えさしフローリング製作所が合併
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQに上場
平成22年12月	小笠原不動産株式会社、株式会社夕張フローリング製作所、北見ベニヤ株式会社を吸収合併
平成24年9月	北海道函館市の函館日産自動車株式会社の株式取得（現・連結子会社）
平成25年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に上場
平成26年12月	株式会社テーオースイミングスクールを吸収合併
平成27年4月	北海道北見市の北見日産自動車株式会社の株式取得（現・連結子会社）
平成29年6月	商号を「株式会社テーオーホールディングス」に変更 会社分割による持株会社体制へ移行 木材・住宅事業を「株式会社テーオーフォレスト」、流通事業（百貨店事業）を「株式会社テーオーデパート」、流通事業（ホームセンター事業）を「株式会社テーオーリテイリング」、ケアサービス事業・スポーツクラブ事業を既存の連結子会社「株式会社テーオー総合サービス」に承継

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社及び子会社11社で構成され、木材、流通、住宅、建設、不動産賃貸、自動車関連、スポーツクラブを主たる業務としております。

当社グループの事業内容及び当社の当該事業に係る位置付けは、次のとおりであります。

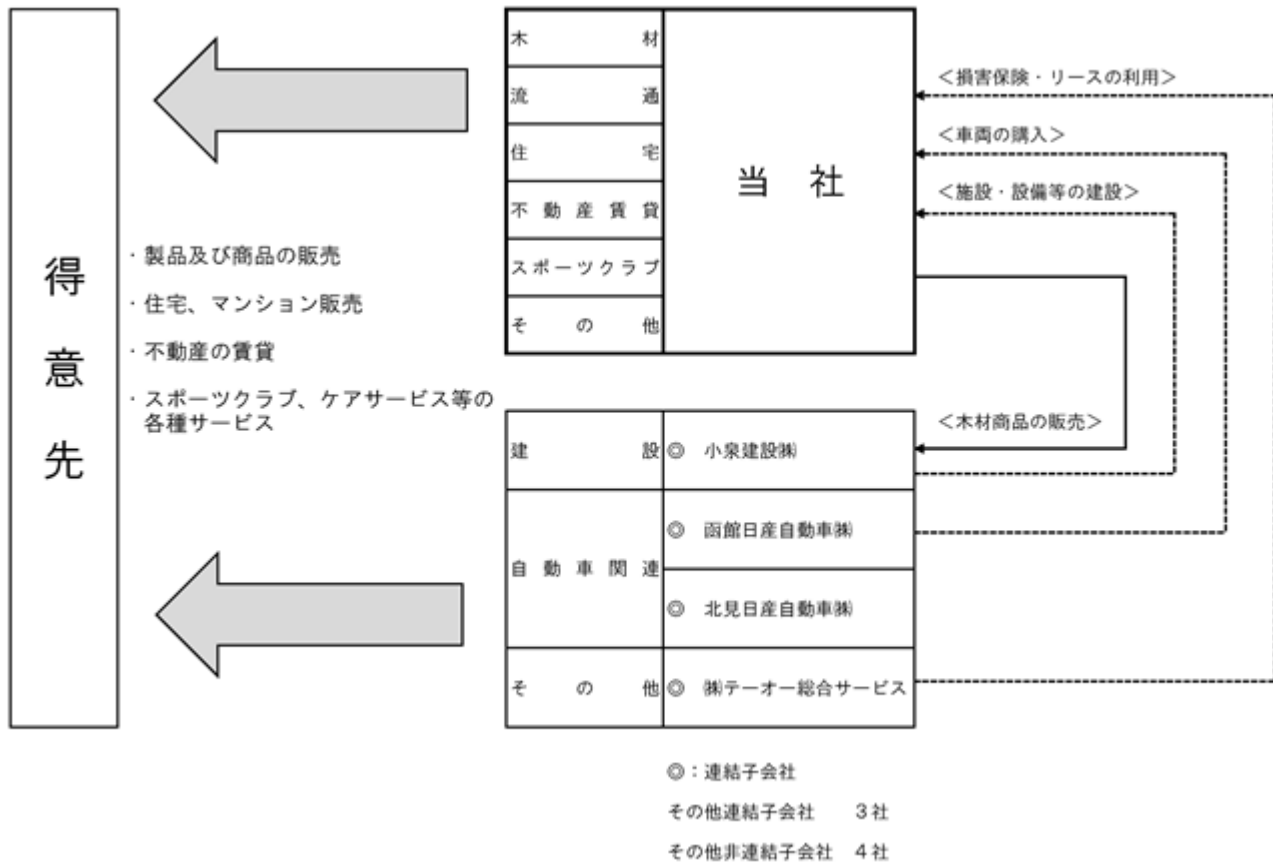
また、次の8部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

なお、当連結会計年度より、「その他」に含まれていた「スポーツクラブ」については、量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。並びに、(株)テーオーフォレスト、(株)テーオーデパート、(株)テーオーリテイリングは、新規設立に伴い当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

- 木材 : 当社は、木材の総合商社として、各種原木、フローリング（床板）、家具・床材用広葉樹製材、建築用針葉樹製材及び一般建築用建材・合板等を販売しております。取扱商品のうち、フローリング、合板を製造し、それぞれ全国で販売・施工しております。
- 流通 : 当社は、衣料品、家具、家電、生活家庭用品、携帯電話代理店業、DIY用品及び食料品等を販売並びにクレジットカード（割賦販売）業務を行っております。また、クレジットカード業務に付随し、消費者ローン（自社ローン）業務を行っております。
- 住宅 : 当社は、戸建住宅、マンション、宅地の販売及び施工を行っております。また、非連結子会社である(株)テーオーファシリティーズが住宅リフォーム及びビルメンテナンス事業を行っております。
- 建設 : 連結子会社である小泉建設(株)は土木工事、舗装工事、ビル・商業施設等の建設工事業を行っております。
- 不動産賃貸 : 当社は、土地・建物（マンション・戸建住宅・事務所・倉庫等）の賃貸事業を行っております。
- 自動車関連 : 連結子会社である函館日産自動車(株)及び北見日産自動車(株)は日産自動車ディーラーとして自動車販売及び自動車修理事業を行っております。
- スポーツクラブ : 当社は、スポーツクラブ及びスイミングスクールの運営を行っております。
- その他 : 当社は、サービス付き高齢者向け住宅、デイケア等のケアサービス業を行っております。また、連結子会社である(株)テーオー総合サービスが火災保険・自動車保険・損害保険の保険代理店業、生命保険募集業及びリース業を行っております。

## [事業系統図]

以上述べた事項を事業系統図によって示すと、次のとおりであります。



## 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の 内容	議決権の所 有割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
小泉建設(株)(注)5	北海道函館市	50,000	建設	100.0	建築資材の販売をしており ます。 役員を兼任しております。
函館日産自動車(株)(注)3	北海道函館市	50,000	自動車関連	100.0	役員を兼任しております。
北見日産自動車(株)(注)4	北海道北見市	90,000	自動車関連	100.0	役員を兼任しております。
(株)テーオー総合サービス	北海道函館市	50,000	その他	100.0	役員を兼任しております。
(株)テーオーフォレスト	北海道函館市	100,000	木材、住宅	100.0	役員を兼任しております。
(株)テーオーデパート	北海道函館市	100,000	流通(百貨店 事業)	100.0	役員を兼任しております。
(株)テーオーリテイリング	北海道函館市	100,000	流通(ホーム センター事 業)	100.0	役員を兼任しております。

(注)1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 上記連結子会社のうち有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

3. 函館日産自動車(株)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	4,415,605千円
	(2) 経常利益	74,469千円
	(3) 当期純利益	47,375千円
	(4) 純資産額	213,205千円
	(5) 総資産額	1,446,178千円

4. 北見日産自動車(株)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	4,206,481千円
	(2) 経常利益	97,792千円
	(3) 当期純利益	65,110千円
	(4) 純資産額	237,379千円
	(5) 総資産額	1,839,981千円

5. 特定子会社であります。

## 5【従業員の状況】

## (1) 連結会社の状況

平成29年5月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
木材	173 (23)
流通	227 (380)
住宅	23 (3)
建設	22 (4)
不動産賃貸	2 (-)
自動車関連	243 (34)
スポーツクラブ	17 (40)
その他	41 (40)
全社(共通)	35 (1)
合計	783 (525)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含むほか、常用パートを含む。)であり、臨時雇用者数(季節工、パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含み、常用パートは除く。)は( )内に年間の平均人数を外書きしております。
2. 全社(共通)として、記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。
3. 当連結会計年度より、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」をご参照ください。

## (2) 提出会社の状況

平成29年5月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
502(480)	40.1	12.9	3,859,469

セグメントの名称	従業員数(名)
木材	173 (23)
流通	227 (380)
住宅	23 (3)
不動産賃貸	2 (-)
スポーツクラブ	17 (40)
その他	25 (33)
全社(共通)	35 (1)
合計	502 (480)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含むほか、常用パートを含む。)であり、臨時雇用者数(季節工、パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含み、常用パートは除く。)は( )内に年間の平均人数を外書きしております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 全社(共通)として、記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。



(3) 労働組合の状況

当社及び小泉建設(株)、(株)テーオー総合サービス、(株)テーオーフォレスト、(株)テーオーデパート、(株)テーオーリテイリングに労働組合はありませんが、函館日産自動車(株)には函館日産自動車労働組合、北見日産自動車(株)には北見日産自動車労働組合があり、それぞれ全日産販売労働組合に加盟しております。平成29年5月31日現在の組合員数は186名であります。

なお、労使関係は安定しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の各種経済政策により企業収益や雇用環境が改善されるなど緩やかな回復基調で推移しました。一方、世界経済については、米国の新政権による政策動向や英国のEU離脱問題等により先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは今後も成長を一層加速・定着させ、グループ全体の企業価値を最大化するため、平成29年6月1日より持株会社体制に移行することを決定し、新たな体制に向け各事業の収益構造の再構築を進めてまいりました。販売力の強化の一環としましては、平成28年10月に「イエローグローブ斜里店」（北海道斜里郡）、平成29年1月に「ドコモショップ函館本店」（北海道函館市）、平成29年2月には「テーオースポーツクラブ」（北海道函館市）をそれぞれ新規オープンさせるなど、積極的な営業展開を進めてまいりました。

この結果、売上高は40,187百万円（前連結会計年度比0.4%増）となりました。利益面につきましては、営業利益は32百万円（同83.7%減）、経常利益は139百万円（同76.4%増）、親会社株主に帰属する当期純損失は503百万円（前連結会計年度は親会社株主に帰属する当期純損失68百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、当連結会計年度より、「その他」に含まれていた「スポーツクラブ」については、量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

木材事業におきましては、公共工事の減少に伴い、フローリング（床板）工事の受注件数が減少したことなどにより前年を下回りました。

この結果、売上高は10,368百万円（前年同期比7.0%減）となりました。

流通事業におきましては、「イエローグローブ斜里店」（北海道斜里郡）、「ドコモショップ函館本店」（北海道函館市）を新規オープンさせるなど販売力の強化に努めましたが、耐久消費財に対する消費マインドが低調に推移していることなどにより前年を下回りました。

この結果、売上高は14,715百万円（同2.4%減）となりました。

住宅事業におきましては、戸建て住宅の着工戸数が増加したこと及び販売用不動産の売却があったことなどにより前年を上回りました。

この結果、売上高は1,395百万円（同35.6%増）となりました。

建設事業におきましては、民間の大型物件の完成引き渡しがあったことなどにより前年を上回りました。

この結果、売上高は3,327百万円（同23.9%増）となりました。

不動産賃貸事業におきましては、売上高は512百万円（同1.3%減）となりました。

自動車関連事業におきましては、取扱い車種の一部に販売停止期間があったものの、新型車の投入などの効果により前年を上回りました。

この結果、売上高は8,610百万円（同2.4%増）となりました。

スポーツクラブ事業におきましては、売上高は143百万円（同21.0%減）となりました。

なお、当社は、平成29年6月1日より持株会社体制に移行し、商号を「株式会社テーオーホールディングス」に変更いたしました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、有形固定資産の取得による支出及び長期借入金の返済による支出などにより、前連結会計年度に比べ490百万円増加し、1,304百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により獲得した資金は1,056百万円（前年同期は942百万円の獲得）で、主に売上債権が396百万円減少したことなどによるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は1,672百万円（前年同期は1,079百万円の使用）で、主に有形固定資産の取得による支出が1,605百万円あったことなどによるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により獲得した資金は1,106百万円（前年同期は148百万円の使用）で、主に長期借入金の返済による支出が3,023百万円あったものの、短期借入金の純増額が330百万円及び長期借入れによる収入が4,150百万円あったことなどによるものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)	前年同期比(%)
木材(千円)	1,685,396	87.3
合計(千円)	1,685,396	87.3

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等を含んでおりません。

### (2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
住宅	1,220,526	126.7	123,015	44.4
建設	2,910,975	87.7	1,647,913	78.6
合計(千円)	4,131,502	96.5	1,770,929	74.6

- (注) 1. 受注額は、受注契約時における金額により計上しております。  
2. 上記の金額には、消費税等を含んでおりません。

### (3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)	前年同期比(%)
木材(千円)	10,368,221	93.0
流通(千円)	14,715,512	97.6
住宅(千円)	1,395,945	135.6
建設(千円)	3,327,322	123.9
不動産賃貸(千円)	512,914	98.7
自動車関連(千円)	8,610,439	102.4
スポーツクラブ(千円)	143,863	79.0
報告セグメント 計(千円)	39,074,220	100.1
その他(千円)	1,113,299	115.0
合計(千円)	40,187,520	100.4

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。  
2. 前連結会計年度及び当連結会計年度における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、すべての当該割合について100分の10に満たないため、記載を省略しております。  
3. 上記の金額には、消費税等を含んでおりません。

### 3【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営方針

##### 会社の経営の基本方針

当社グループは、テーオーグループに関わる「全ての人」を「物心ともに豊か」にして、「社会に貢献」することを経営理念に掲げ、以って全従業員の幸せ、ステークホルダーの幸せ、地域貢献・社会貢献を達成するため、具体的な基本方針として全体最適を指向した「グループ体経営」、公明正大を指向した「ガラス張り経営」、全員参加・適材適所を指向した「活力ある組織」を築くことを確実に実行してまいります。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、主な事業を木材、流通、自動車関連とする複合企業であることから、各事業により収益性が異なっております。そのため安定した利益を確保する体制として、営業利益率を重要な経営指標としております。

#### (3) 経営戦略等

##### (経営体制の構築)

当社グループは、今後の成長を一層加速・定着させ、グループ全体の企業価値を最大化するために、経営体制の再構築が必要であると判断し、平成29年6月1日より持株会社体制に移行しました。

なお、持株会社体制に移行する目的は以下のとおりであります。

##### 戦略機能の強化

持株会社は、当社グループの経営方針を決定するとともに、全社最適な経営戦略の企画及び立案、並びに経営資源の最適配分を実現してまいります。

##### 事業競争力の強化

各事業会社は、事業に関する権限と責任のもと、迅速な意思決定を事業環境に適した機動的な業務執行を行うことで、これまで以上に外部環境の変化に即応できる体制を実現してまいります。

##### グループ経営効率の追求

グループ全体の共通機能（間接部門を含みます）を集約し、業務の効率化また専門機能の高度化を図ってまいります。

##### 事業シナジーの最大化と事業ポートフォリオの再構築

既存事業領域とシナジー効果を見込むことができる外部事業・会社との提携やM&Aを積極的に推進してまいります。一方、他社と統合することでより一層のスケールメリットや事業採算性の向上などが期待できると判断した場合には、当該事業の切り出しを行うことも検討してまいります。

##### (中期経営計画の概要)

当社グループは、新たな体制による中期経営計画としまして、平成29年度から平成33年度を最終年度とする「TFP」(TO Future Plan)を策定しました。本計画における構想を「新化と深化」とし、持株会社体制のメリットを活かした「新ビジネスの構築(新化)」・「既存ビジネスの充実(深化)」を基本戦略としてグループ全体で取り組んでまいります。

#### (4) 経営環境

当社グループをとりまく環境としましては、国内の人口減少に伴うマーケットの縮小、他業界からの新規参入による競争激化等、今後も厳しい事業環境が続くものと予想されます。このような状況下、当社には地域社会との共存共栄、長年培われた経験及びノウハウを活用した既存事業への特化等、他社との差別化を図る経営戦略が今まで以上に求められております。

#### (5) 会社の対処すべき課題

当社グループは、持株会社としての新体制に伴い、各事業会社は既存事業領域とシナジー効果を見込むことができる外部事業・会社との提携やM&Aを積極的に推進してまいります。また、他社と統合することでより一層のスケールメリットや事業採算性の向上などが期待できると判断した場合には、当該事業の切り出しを行うことも検討してまいります。

一方、M&Aによる事業会社の取り込みなどグループの成長に伴い、将来、グループ内での役割と機能の重複や分散が起り得ること、また、事業領域の拡大による管理精度の低下も懸念され得ると認識しております。

これらのリスクを未然に防止し、グループ全体の企業価値を持続的に向上させるよう努めてまいります。

#### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成29年8月25日）現在において、当社グループが判断したものであります。

##### （1）業種的リスク

当社グループは、木材、住宅、建設において公共投資の増減、新設住宅着工戸数の増減により売上高に相当の影響を受ける可能性があります。また、流通及び自動車関連においては気候状況、消費動向により売上高に相当の影響を受ける可能性があります。従って、これらの要因によっては、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### （2）債権管理リスク

当社グループは、木材で主に建築資材を全国で販売しており、取引先は、小売店、工務店、建築業者等であり取引先の経営状況については把握しておりますが、取引先に財務上の問題が生じた場合は、経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

##### （3）法的規制等リスク

当社グループの流通、住宅、建設、不動産賃貸は「大規模小売店舗立地法」、「建築基準法」、「都市計画法」等の様々な法的規制を受けております。これらの法的規制等により計画どおりの新規出店及び既存店舗の増床、建築等ができない場合には、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。また、その他の事業では、ケアサービス業において「介護保険法」の改正により介護報酬改定が行われることにより、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### （4）特定取引先リスク

当社グループの、自動車関連は特定取引先（日産自動車㈱等）と特約販売契約を締結しております。販売する商品の自動車は特定取引先で生産、供給されております。従って、特定取引先の経営戦略、及び災害等による生産、供給の状況により経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

##### （5）有利子負債依存度リスク

当社グループは、木材において生産設備、流通において店舗用設備、住宅において販売用不動産、不動産賃貸において賃貸用設備の取得資金、流通において消費者ローン貸付資金を、主として金融機関からの借入金により調達しているため、有利子負債への依存度が高い水準にあります。このため、金利水準が変動した場合は、経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

最近3連結会計年度における有利子負債の状況は、次のとおりであります。

期別	平成27年5月期	平成28年5月期	平成29年5月期
項目			
総資産額（千円）	29,189,504	28,870,101	30,098,813
有利子負債合計（千円）	14,459,484	14,695,762	16,152,262
有利子負債依存度（％）	49.5	50.9	53.7
支払利息（千円）	216,339	206,128	184,511

（注）有利子負債合計の金額は、金融機関からの借入金であります。

##### （6）災害等リスク

当社グループは、木材においてフローリング（床板）、ベニヤの製品を製造し、全国で販売しております。また、流通においてデパート、ホームセンター、スーパーマーケット及び自動車関連で店舗による事業を行っており、自然災害・火災等により工場の操業停止、店舗の営業停止等により、経営成績及び財務状態に影響を及ぼす可能性があります。また、その他の事業ではケアサービス業において施設内の疫病が発生した場合には利用者の減少により経営成績に影響を受ける可能性があります。

## 5【経営上の重要な契約等】

当社は、平成28年7月14日開催の取締役会において、平成29年6月1日を目処に会社分割の方式により持株会社に移行すること、及び平成28年9月上旬に分割準備会社として当社100%出資の子会社を設立することを決議いたしました。

当決議に基づき、平成29年4月14日開催の取締役会において、当社が営む「木材事業、住宅事業」を「株式会社テーオーフォレスト」、「流通事業（百貨店事業）」を「株式会社テーオーデパート」、「流通事業（ホームセンター事業）」を「株式会社テーオーリテイリング」、「ケアサービス事業及びスポーツクラブ事業」を既存の100%子会社「株式会社テーオー総合サービス」との間で吸収分割契約を締結することを決議し、同日付けで本件吸収分割契約を締結のうえ、予定通り平成29年6月1日に承継させました。

会社分割の概要は次のとおりであります。

### (1) 会社分割の目的

当社グループは、「テーオーグループに関わる全ての人を物心ともに豊かにし、社会に貢献する」ことを経営理念に掲げ、地域社会に密着した事業を展開してまいりました。

平成25年6月よりスタートした中期経営計画「テーオー・アドヴァンス・プラン（TAP）」において、成長戦略の一環としてM&A活用による業容拡大と、既存事業領域の絶えざる変革によるコア事業の強化を基軸として、持続的成長に資する各種施策を展開してまいりました。

今後、成長を一層加速・定着させ、グループ全体の企業価値を最大化するために、経営体制の再構築が必要であると判断し、持株会社体制へ移行することといたしました。

### (2) 会社分割の方法

当社を分割会社とする会社分割（吸収分割）により、分割する事業等を当社が100%出資する株式会社テーオーフォレスト、株式会社テーオーデパート、株式会社テーオーリテイリング、株式会社テーオー総合サービスに承継する方法を予定しております。

### (3) 分割期日

平成29年6月1日

### (4) 分割に際して発行する株式及び割当

承継会社である株式会社テーオーフォレスト、株式会社テーオーデパート、株式会社テーオーリテイリング、株式会社テーオー総合サービスは、分割に際して普通株式をそれぞれ1株発行し、これをすべて分割会社である当社に割当て交付します。

### (5) 割当株式の算定根拠

吸収分割承継会社である株式会社テーオーフォレスト、株式会社テーオーデパート、株式会社テーオーリテイリング、株式会社株式会社テーオー総合サービスは、いずれも当社の100%子会社であり、本件吸収分割に際して吸収分割承継会社が新たに発行する株式の全部を当社に交付するため、吸収分割承継会社と協議の上、割当株式数を決定いたしました。

### (6) 分割する部門の事業内容及び経営成績（平成29年5月期）

分割する部門の事業内容	売上高（千円）	営業利益（千円）
木材事業	10,432,690	116,053
流通事業	14,715,512	277,292
住宅事業	1,400,418	122,226
スポーツクラブ事業	143,863	74,883
ケアサービス事業	410,242	3,623

## (7) 分割する資産・負債の状況(平成29年5月31日現在)

## 木材事業

資産		負債	
項目	金額(千円)	項目	金額(千円)
流動資産	3,997,695	流動負債	2,176,251
固定資産	174,051	固定負債	291,133
合計	4,171,746	合計	2,467,385

## 流通事業

資産		負債	
項目	金額(千円)	項目	金額(千円)
流動資産	4,600,282	流動負債	2,748,336
固定資産	1,131,344	固定負債	1,129,671
合計	5,731,627	合計	3,878,004

## 住宅事業

資産		負債	
項目	金額(千円)	項目	金額(千円)
流動資産	124,950	流動負債	186,940
固定資産	157,741	固定負債	53,550
合計	282,691	合計	240,491

## スポーツクラブ事業

資産		負債	
項目	金額(千円)	項目	金額(千円)
流動資産	13,492	流動負債	15,581
固定資産	40,960	固定負債	60,459
合計	54,452	合計	76,041

## ケアサービス事業

資産		負債	
項目	金額(千円)	項目	金額(千円)
流動資産	63,206	流動負債	29,327
固定資産	22,714	固定負債	45,553
合計	85,920	合計	74,880

## (8) 吸収分割承継会社の概要(平成29年5月31日現在)

商号	株式会社テーオーフォレスト
本店所在地	北海道函館市中島町38番8号
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 福岡 孝夫
事業の内容	木材事業、住宅事業
資本金の額	100百万円
設立年月日	平成28年9月15日
発行予定株式数	2,000株
決算期	5月31日
大株主及び持株比率	当社 100%

商号	株式会社テーオーデパート
本店所在地	北海道函館市梁川町10番25号
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 和泉 日路志
事業の内容	流通事業(百貨店事業)
資本金の額	100百万円
設立年月日	平成28年9月15日
発行予定株式数	2,000株
決算期	5月31日
大株主及び持株比率	当社 100%

商号	株式会社テーオーリテイリング
本店所在地	北海道函館市西桔梗町589番124号
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 西谷 英樹
事業の内容	流通事業(ホームセンター事業)
資本金の額	100百万円
設立年月日	平成28年9月15日
発行予定株式数	2,000株
決算期	5月31日
大株主及び持株比率	当社 100%

商号	株式会社テーオー総合サービス
本店所在地	北海道函館市港町1丁目17番8号
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 松本 清和
事業の内容	損害保険代理業、生命保険の募集に関する業務、事務用品、オフィス用品の販売業、自動車リース業務・割賦販売業務、駐車場の経営
資本金の額	50百万円
設立年月日	昭和47年9月2日
発行済株式総数	100,000株
決算期	5月31日
大株主及び持株比率	当社 100%

## 6【研究開発活動】

該当事項はありません。



## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における事項は、当連結会計年度末（平成29年5月31日）現在において当社グループが判断したものであります。

### （1）重要な会計方針及び見積り

当社の連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。当社で採用する重要な会計方針については、「第5 経理の状況」をご参照ください。

### （2）当連結会計年度度の経営成績の分析

当連結会計年度の経営成績の分析につきましては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要」をご参照ください。

### （3）当連結会計年度の財政状態の分析

当連結会計年度末における総資産は30,098百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,228百万円増加しました。主な要因としましては、建物及び構築物が782百万円、現金及び預金が512百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。

負債合計は、26,926百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,735百万円増加しました。主な要因としましては、短期借入金559百万円、長期借入金897百万円それぞれ増加したことなどによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ506百万円減少し、3,172百万円となりました。

### （4）資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金状況は、営業活動によるキャッシュ・フローは、主に売上債権が396百万円減少したことなどにより合計1,056百万円の資金を得ることとなりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形固定資産の取得による支出が1,605百万円あったことなどにより合計1,672百万円の資金を使用しました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは、主に長期借入金の返済による支出が3,023百万円あったものの、短期借入金の純増額が330百万円及び長期借入れによる収入が4,150百万円あったことなどにより、合計1,106百万円の資金を得ることとなりました。この結果、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べ490百万円増加し1,304百万円となりました。

### （5）経営成績に重要な影響を与える要因

当社グループは、木材事業、住宅事業及び建設事業において公共事業、新設戸建住宅着工戸数等の減少、流通事業及び自動車関連事業においては景気の動向、個人消費、気候の状況等により売上高及び利益に重大な影響を与える要因となります。

また、木材事業においては主に建築資材を全国の小売店、建設会社等に販売しており、それらの取引については経営状況の把握に努めておりますが、取引先に財務上の問題が生じた場合は、経営成績に重要な影響を与える要因となり、流通事業、住宅事業、建設事業及び不動産賃貸事業においては「大規模小売店舗立地法」、「建築基本法」、「都市計画法」等の様々な法的規制に準じて建設、増床計画を立案し事業を運営しておりますが、それらの法律、規制等が新設、改訂された場合には経営成績に重要な影響を与える要因となります。

### （6）経営戦略の状況と見通し

当社グループといたしましては、上記の現状を踏まえ、営業活動を展開するとともに、より一層の経営体質の強化を図ってまいります。

なお、経営戦略の見通しについては、「第2 事業の状況 3 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載のとおりであります。

## 第3【設備の状況】

## 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資額は2,104,383千円であり、主に流通事業の新規店舗に436,769千円、スポーツクラブ事業のスポーツクラブ施設の新設に546,177千円であります。

なお、重要な設備の除却、売却はありません。

## 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

## (1) 提出会社

(平成29年5月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額						従業員 数 (名)
			建物及び構 築物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	土地 (千円)	リース資 産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	
					(㎡)				
本社・統括管理本部 (北海道函館市)	全社共通	総括業務施設	27,172	14,986	121,731 (1,790)	5,056	37,587	206,535	32 [1]
木材事業部函館支店 (北海道函館市)	木材	事務所・倉庫	58,838	18,456	336,581 (10,378)	3,901	422	418,200	22 [0]
木材事業部夕張工場 (北海道夕張市)	木材	フローリング製造施設	41,855	0	96,157 (70,788)	-	309	138,321	33 [7]
木材事業部北見工場 (北海道北見市)	木材	合板製造施設	16,243	3,488	106,036 (161,905)	558	431	126,757	24 [11]
木材事業部盛岡支店 (岩手県盛岡市)	木材	事務所・倉庫	22,212	0	291,288 (21,797)	2,356	0	315,857	9 [2]
流通事業部デパート本店 (注2) (北海道函館市)	流通	販売施設	428,720	3,383	167,932 (4,497) [1,538]	35,081	249,932	885,050	86 [92]
流通事業部イエローグ ロープ港店 (北海道函館市)	流通	販売施設	45,881	-	339,052 (4,224)	4,851	554	390,339	5 [7]
流通事業部イエローグ ロープ金堀店 (北海道函館市)	流通	販売施設	93,047	-	396,045 (13,948)	25,746	776	515,615	8 [14]
流通事業部イエローグ ロープ江差店 (北海道松山郡江差町)	流通	販売施設	64,754	-	142,896 (9,734)	10,391	547	218,590	4 [17]
流通事業部イエローグ ロープ東室蘭店 (北海道室蘭市)	流通	販売施設	63,388	-	114,792 (3,967)	4,504	2,213	184,899	4 [13]
流通事業部イエローグ ロープ苫小牧店 (北海道苫小牧市)	流通	販売施設	58,887	130	201,184 (8,561)	6,434	380	267,016	4 [10]
流通事業部イエローグ ロープ亀田店 (北海道函館市)	流通	販売施設	72,950	-	394,841 (9,372)	15,503	550	483,846	5 [15]
流通事業部イエローグ ロープ白鳥大橋蘭西店 (北海道室蘭市)	流通	販売施設	46,582	-	149,088 (6,570)	5,464	297	201,432	4 [10]
流通事業部イエローグ ロープ厚岸店(注3) (北海道厚岸郡厚岸町)	流通	販売施設	89,987	-	- (-) [4,953]	4,865	20	94,872	3 -
流通事業部イエローグ ロープ芦別店 (北海道芦別市)	流通	販売施設	114,685	-	26,326 (8,623)	7,098	79	148,189	5 [6]
流通事業部イエローグ ロープ上土幌店 (北海道河東郡上土幌町)	流通	販売施設	149,329	0	9,891 (3,497)	18,593	1,070	178,884	4 [2]
流通事業部イエローグ ロープ斜里店(注4) (北海道斜里郡斜里町)	流通	販売施設	346,627	-	- (-) [9,924]	56,795	1,464	404,886	4 [8]

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額						従業員 数 (名)
			建物及び構 築物 (千円)	機械装置及 び運搬具 (千円)	土地 (千円)	リース資 産 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	
					(㎡)				
ハートトゥハート北浜 (北海道函館市)	その他	介護施設	455,773	-	181,905 (4,139)	13,185	5,081	655,945	25 [33]
テーオースポーツクラブ (北海道函館市)	スポーツク ラブ	スイミング スクール施 設等	555,018	-	560,620 (7,095)	39,899	941	1,156,480	17 [40]

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は工具、器具及び備品並びに無形固定資産の合計であり、建設仮勘定を含んでおりません。

なお、金額には消費税等を含んでおりません。

- 土地の一部を賃借しており、賃借料は4,245千円であります。土地の面積につきましては [ ] で外書きしております。
- 土地の全てを賃借しており、賃借料は3,600千円であります。土地の面積につきましては [ ] で外書きしております。
- 土地の全てを賃借しており、賃借料は6,621千円であります。土地の面積につきましては [ ] で外書きしております。
- 上記の他、賃貸用資産3,553,696千円があり、その主なものは次のとおりであります。

賃貸用マンション(6カ所)	290,923千円
湯川テーオーハウスビル(北海道函館市)	333,399千円
本町テーオーハウスビル(北海道函館市)	188,527千円
森町複合店舗施設(北海道茅部郡森町)	265,374千円
賃貸用土地(岩手県盛岡市)	378,952千円
函館駅前ビル(北海道函館市)	234,503千円
港町ビル(北海道函館市)	143,932千円
本通3丁目賃貸(北海道函館市)	213,330千円

- 従業員数の [ ] は、臨時従業員数を外書しております。

## (2) 国内子会社

該当事項はありません。

## (3) 在外子会社

該当事項はありません。

## 3【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末における重要な設備の新設、除却等の計画は、次のとおりであります。

### (1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,000,000
計	22,000,000

## 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成29年5月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成29年8月25日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,926,896	8,926,896	東京証券取引所JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	8,926,896	8,926,896	-	-

## (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
平成24年8月28日 (注)	-	8,926,896	-	1,775,640	700,000	1,167,443

(注) 会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金へ振替えたものであります。

## (6) 【所有者別状況】

平成29年5月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	12	15	90	2	-	2,411	2,530	-
所有株式数(単元)	-	15,201	353	11,428	6	-	62,251	89,239	2,996
所有株式数の割合(%)	-	17.03	0.40	12.81	0.01	-	69.75	100.00	-

(注) 自己株式2,615,327株は、「個人その他」に26,153単元及び「単元未満株式の状況」に27株を含めて記載しております。

## (7) 【大株主の状況】

平成29年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
小笠原 康正	北海道函館市	865	9.69
小笠原 孝	北海道函館市	592	6.64
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	東京都新宿区西新宿1丁目26番1号	485	5.43
テーオー小笠原取引先持株会	北海道函館市港町3丁目18-15	405	4.54
小笠原 正	北海道函館市	365	4.09
株式会社北海道銀行	北海道札幌市中央区大通西4丁目1番地	313	3.51
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	東京都中央区晴海1丁目8-11	301	3.37
小笠原 弘	北海道松山郡江差町	255	2.87
朝日生命保険相互会社	東京都千代田区大手町2丁目6-1	110	1.23
株式会社北洋銀行	北海道札幌市中央区大通西3丁目7	104	1.17
計	-	3,797	42.54

(注) 1. 上記のほか、当社は自己株式を2,615千株保有しており、上記大株主から除外しております。

2. 上記の所有株式数のうち、テーオー小笠原役員持株会の名義により所有している株式数は次のとおりであります。

小笠原 康正 1,776株

## ( 8 ) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成29年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式2,662,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式6,261,000	62,610	-
単元未満株式	普通株式2,996	-	-
発行済株式総数	8,926,896	-	-
総株主の議決権	-	62,610	-

## 【自己株式等】

平成29年5月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株)テーオー小笠原	北海道函館市港町 三丁目18番15号	2,615,300	-	2,615,300	29.30
(相互保有株式) 小泉建設株)	北海道函館市昭和 三丁目36番13号	47,600	-	47,600	0.53
計	-	2,662,900	-	2,662,900	29.83

## ( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## ( 10 ) 【従業員株式所有制度の内容】

該当事項はありません。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

## (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	20	15,160
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式はありません。平成29年8月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買い取りによる株式数は含まれておりません。

## (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	2,615,327	-	2,615,327	-

(注) 当期間における保有株式数には、平成29年8月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買い取りによる株式数は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社の利益配分につきましては、株主に対する利益還元を最優先課題と位置づけており、かつ、着実な業績の向上を図りながらそれに応じた適正な配当を行うことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会でありま

す。  
当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき当期は期末配当として1株当たり10円の配当を実施することを決定しました。この結果、当事業年度の配当性向は10.4%となりました。

当社は、「取締役会の決議により、毎年11月30日を基準として中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は次のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額	1株当たり配当金
平成29年8月24日 定時株主総会決議	63,115千円	10円

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期
決算年月	平成25年5月	平成26年5月	平成27年5月	平成28年5月	平成29年5月
最高(円)	1,008	815	724	1,499	900
最低(円)	740	602	617	645	574

(注) 最高・最低株価は、平成25年7月16日より東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成28年12月	平成29年1月	2月	3月	4月	5月
最高(円)	892	836	730	732	769	766
最低(円)	711	715	700	696	712	731

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。



## 5【役員の状況】

男性8名 女性0名（役員のうち女性の比率0%）

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	全社総括	小笠原 康正	昭和31年7月12日生	昭和54年4月 ㈱北海道銀行本店営業部入社 昭和57年3月 同行退職 昭和57年4月 当社入社 昭和57年6月 当社取締役就任 昭和63年6月 当社常務取締役就任 昭和63年11月 T.O.Forest Products, Inc. 会長就任 平成6年8月 当社専務取締役就任、統括管理本部本部長 平成12年6月 当社住宅事業部本部長 平成12年8月 当社取締役副社長就任 平成16年8月 当社代表取締役社長就任（現任） 平成17年6月 ㈱テーオーファシリティーズ代表取締役社長就任（現任） 平成25年8月 当社全社総括（現任）	(注)4	865
取締役副社長		太田 修治	昭和30年8月23日生	平成22年10月 ㈱北海道銀行理事白石支店長 平成25年7月 当社顧問 平成25年8月 当社取締役副社長就任（現任） 平成25年8月 当社統括管理本部本部長兼グループ担当 平成26年8月 当社全社統括管理部門担当	(注)4	1
取締役		高田 育生	昭和30年1月29日生	平成13年4月 北海道銀行亀田支店長 平成15年6月 同行豊平支店長 平成18年6月 同行執行役員 平成20年6月 同行取締役常務執行役員 平成22年6月 道銀カード株式会社取締役（非常勤） 平成25年6月 道銀カード株式会社代表取締役 平成26年8月 当社取締役就任（現任） 平成28年4月 ほくほくT T証券株式会社代表取締役副社長（現任）	(注)4	-
取締役		米塚 茂樹	昭和32年2月8日生	昭和54年10月 司法試験合格 昭和57年4月 弁護士登録 米塚茂樹法律事務所所長（現任） 平成26年8月 当社取締役就任（現任）	(注)4	-
取締役		佐藤 等	昭和36年7月13日生	昭和62年10月 札幌中央監査法人（現あずさ監査法人）入所 平成2年8月 公認会計士登録 平成2年9月 佐藤等公認会計士事務所所長（現任） 平成8年12月 税理士登録 平成29年8月 当社取締役就任（現任）	(注)7	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		八木 良平	昭和21年8月4日生	平成2年9月 当社入社 平成16年8月 当社取締役就任 平成26年8月 当社監査役就任(現任)	(注)5	2
監査役		高橋 徳友	昭和17年10月2日生	昭和36年4月 札幌国税局入局 平成5年7月 江差税務署署長 平成11年7月 函館税務署署長 平成13年8月 高橋徳友税理士事務所所長(現任) 平成18年8月 当社監査役就任(現任)	(注)5	-
監査役		菊地 喜久	昭和29年2月11日生	昭和60年5月 菊地喜久税理士事務所所長(現任) 平成15年4月 菊地喜久行政書士事務所所長(現任) 平成15年10月 ㈱第一経営会計代表取締役就任 (現任) 平成19年8月 当社監査役就任(現任)	(注)6	-
計						869

(注)1. 取締役高田育生及び米塚茂樹並びに佐藤等は、社外取締役であります。

2. 監査役高橋徳友及び菊地喜久は、社外監査役であります。

3. 上記の所有株式数のうち、テーオーホールディングス役員持株会の名義により所有している株式数は次のとおりであります。

小笠原 康正 1,776株

太田 修治 1,221株

八木 良平 2,066株

4. 平成28年8月25日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

5. 平成26年8月21日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6. 平成27年8月20日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

7. 平成29年8月24日開催の定時株主総会の終結の時から1年間

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

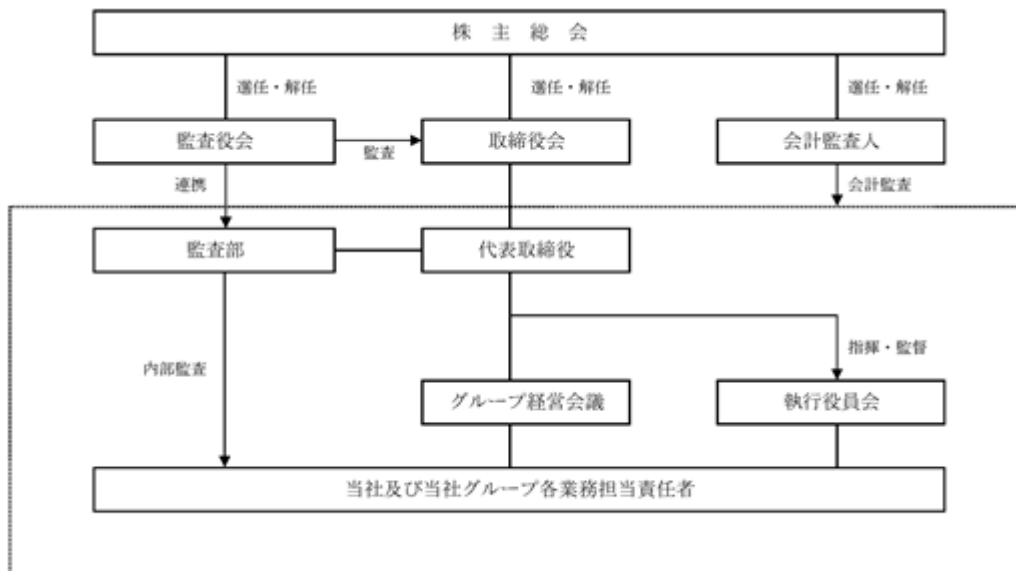
当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、株主各位に対する株主利益を尊重するとともに経営責任の明確化、当社グループ会社の経営責任の明確化、事業部門の経営責任の明確化を図ることを基本方針としております。また、株主、投資家に対する経営情報の透明性を向上させ、必要な施策を実施しコーポレート・ガバナンスを充実させていくことが経営上の重要な課題と位置づけております。

企業統治の体制

#### イ．企業統治の体制の概要

- a 当社は監査役会制度を採用しております。
- b 取締役会は、取締役5名（うち社外取締役3名）で構成されており、監査役3名（うち社外監査役2名）も参加し毎月1回開催するほか必要に応じ臨時取締役会を開催し、重要事項の審議並びに意思決定と経営全般に対する監督及び業務執行役員の業務執行を監督しております。
- c グループ全体の経営方針の伝達と重要事項の協議を行うため、代表取締役を中心としたグループ経営会議を毎月1回開催しております。
- d 経営と執行の分離の観点から執行役員制度を導入し、執行役員4名は取締役会が定める組織規程及び執行役員職務権限規程に基づき、所管する各部門の業務を執行しております。また、執行役員会を毎月1回開催しております。

当社のコーポレート・ガバナンス及び内部統制システムの概要は、次のとおりであります。



## ロ．前項記載の企業統治の体制を採用する理由

当社は、経営の意思決定機能と、執行役員による業務執行を管理監督する機能を取締役会が持つことにより、経営効率の向上と的確かつ戦略的な経営判断が可能な体制をとっております。さらに取締役会に対する監視機能を発揮するため、社外取締役3名を選任するとともに、監査役3名のうち2名を社外監査役としております。社外取締役は、企業経営及び法曹界における経験に基づく見識をもとに、取締役会に対する的確な提言と監視機能を果たしております。さらに、社外監査役はそれぞれが専門的知識を有し、その専門的見地からの的確な経営監視を行っております。また、社外取締役1名及び社外監査役2名はそれぞれ当社との人的関係、資本的関係、または取引関係その他の利害関係において当社の一般株主との利益相反が生じるおそれがなく、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所へ届け出ております。

## ハ．内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況

当社は、取締役会において、次のとおり内部統制システムの基本方針に関し決議しております。また、平成27年5月19日開催の取締役会決議に基づき、内容を一部改正いたしました。

- a 当社及び当社子会社（以下、「当社グループ」とする）取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制  
当社グループの取締役及び使用人が法令、定款及び企業倫理等を遵守した職務執行を行うための行動規範となるコンプライアンスに関する規程を定め、当社グループの取締役及び使用人にコンプライアンスに対する認識を浸透させる。また、その徹底を推し進めるために総務部コンプライアンス室、監査部及び監査役が、それぞれ連携してコンプライアンス体制を統括するものとし、維持、整備及び強化を行うものとする。
- b 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制  
取締役の職務の執行に係る情報については、文書管理規程に基づき、その記録媒体に応じて適切に保存及び管理を行い、監査役がこれらの文書の保存及び管理が諸規程に準拠して行われているか監査するものとする。
- c 当社グループの損失の危険の管理に関する規程その他の体制  
損失の危険の管理に関する事項については、事業上のリスク管理に関する基本方針、管理体制等の社内規程を定め、これに基づいたリスク管理体制を構築し、適切なリスク管理を行う。また、当社グループにおける重大なリスクが発生した場合、速やかに担当取締役を決定し、迅速な対応を行い損失を最小限に抑える体制とする。
- d 当社グループの取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制  
取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制として、取締役会を定例で毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、当社グループの重要事項に関する意思決定を行う。また、取締役会の決定に基づく業務執行については、業務分掌規程及び職務権限規程において、執行手続の詳細を定めるものとする。
- e 会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制  
グループ会社を含む企業集団としての業務の適正を確保するために、グループ会社を含めた会議を定例で毎月1回開催し、企業経営に係る重要な事項を協議し、業績などの報告を受け、企業集団としての連携体制を確立するものとする。
- f 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制並びにその使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項  
当社は、監査役が必要とした場合、監査役の職務を補助する使用人を配置し、当該使用人に対する指揮命令は監査役の指示に従うものとする。また、配置される使用人の任命、異動及び人事考課等については、監査役の意見を尊重して決定し、その独立性を確保するものとする。
- g 当社グループの取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制及び当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを受けないことを確保するための体制  
当社グループの取締役及び使用人は、監査役に対して、法定の事項に加え、当社の事業活動又は業績に著しい影響を与える恐れのある重要な事項について、速やかに報告するものとする。また、前記にかかわらず、当社の監査役は必要に応じて取締役及び使用人に報告を求めることができるものとする。なお、この場合当社の監査役に報告を行った当社グループの取締役及び使用人が、報告をしたことを理由としていかなる不利な取り扱いをしてはならないものとする。
- h 当社の監査役がその職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理にかかる方針に関する事項  
当社は、当社の監査役がその職務の執行について生ずる費用の前払等の請求をしたときは、当該監査役の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。

## i その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、当社の取締役会に出席し、かつ、必要に応じて、社内の重要な会議に出席することができる。監査役は、取締役の職務の執行に係る文書のほかに稟議書等の業務執行に係る重要な文書を閲覧できるものとする。

## j 反社会的勢力を排除するための体制

当社グループで定めている行動規範（コンプライアンス・プログラム）で明示している。反社会的勢力に対して毅然とした態度で対応し、関係を遮断することを基本としている。また、反社会的勢力からの要求には応じない。法令や企業倫理に反した事業活動を行わないことを指導するとともに内部通報規程を整備している。

## 二．責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結できる旨を定款に定めております。当該定款に基づき、当社は社外取締役と責任限定契約を締結しております。当該契約における損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額であります。

## ホ．内部監査及び監査役監査の状況

- a 監査部は、社長直轄部署として5名で構成され内部監査規程に基づき計画的に行われております。また、監査役と必要の都度、情報交換する体制にしており監査役の協力の下、業務の適正な遂行のために必要な指導を行っております。
- b 監査役会は、監査役3名で構成されており、社外監査役は2名で監査役会が定めた監査の方針に従い、取締役の職務執行について監査しております。また、監査役会において相互の職務の状況を報告し、認識を共有しております。
- c 監査役会、監査部及び会計監査人とは、必要に応じ情報交換、意見交換を行い監査の効率性の向上を目指しております。

## へ. 会計監査の状況

会計監査人につきましては、新日本有限責任監査法人に委託し、継続して会社法監査及び金融商品取引法監査を受けており、当社は正確且つ迅速な経営情報及び財務情報の提供に配慮しております。なお、会計監査人である監査法人及び業務執行社員と当社との間に利害関係はありません。

業務を執行した公認会計士の氏名及び継続監査年数

・指定有限責任社員 業務執行社員：板垣博靖（1年）、柴本岳志（3年）

会計監査業務に係る補助者の構成

・公認会計士：17名、その他：10名

なお、平成29年8月24日開催の第63期定時株主総会において、有限責任監査法人トーマツへの会計監査人変更を決議しております。

## ト. 社外取締役及び社外監査役との関係

当社の社外取締役は3名、社外監査役は2名であります。

社外取締役高田育生氏は、はくはくTT証券株式会社の代表取締役副社長を務めており、会社経営者としての豊富な業務経験をもとに独立した立場から当社の経営を監督いただき、的確な提言をいただけるものと判断しております。

社外取締役米塚茂樹氏は、会社の経営に関与した経験を有してはおりませんが、弁護士として30年以上にわたる法曹界における経験・知見をもとに独立した立場から経営を監督いただけるものと判断しております。

社外取締役佐藤等氏は、平成2年に佐藤等公認会計士事務所を開業しており、公認会計士として豊富な経験と専門的な知識を有しており、当社に対する会計面での的確な提言をいただけるものと判断しております。

社外監査役高橋徳友氏は昭和36年から30年以上にわたり税務署職員として平成5年には江差税務署署長、平成11年には函館税務署署長を歴任したのち、平成13年8月より高橋徳友税理士事務所所長を務めており、その高い専門的知識、経験をもとに今後も中立的立場から経営監視機能を十分に発揮することが期待できることから、社外監査役として選任しております。

社外監査役菊地喜久氏は昭和60年に菊地喜久税理士事務所、平成15年に菊地喜久行政書士事務所を開設し、税理士及び行政書士としてそれぞれの分野での高い専門知識、経験をもとに経営監視機能を十分に発揮することが期待できることから、社外監査役として選任しております。

なお、社外取締役佐藤等氏及び社外監査役両名はそれぞれ、当社との人間関係、資本的関係、または取引関係その他の利害関係において当社の一般株主との利益相反が生じるおそれがなく、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所へ届け出ております。

当社において、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準または方針として特段の定めはありませんが、その選任に際しては一般株主との利益相反が生じるおそれがないこと及び経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣から独立した立場で社外取締役または社外監査役としての職務を遂行できる十分な独立性を確保できることを総合的に判断しております。

当社は、社外取締役及び社外監査役が独立した立場から経営への監督及び監視を的確かつ有効に実行できる体制を構築するため、監査室との連携の下、経営に関する必要な資料の提供及び説明を行う体制をとっております。また、その体制の強化のため常勤監査役が監査室と密に連携することで社内各部門から十分な情報収集を行っております。これらを通して社外取締役、社外監査役の独立した職務の遂行を支援しております。

## 役員報酬等

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる役員の 員数(人)
		基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	61,974	51,649	-	-	10,325	3
監査役 (社外監査役を除く)	4,650	4,500	-	-	150	2
社外役員	8,964	8,689	-	-	275	4

- (注) 1. 上記には、平成28年8月25日開催の第62回定時株主総会終結の時をもって退任した監査役1名を含んでおります。
2. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法  
 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりませんが、経営成績及び従業員とのバランスを考慮して決定しております。また、取締役及び監査役の年間報酬限度額は、株主総会において次の通り決議されております。  
 取締役報酬額(使用人兼務取締役の使用人分給与及び賞与額は含まない。)  
 ・基本報酬額 年額150百万円以内(平成29年8月24日開催の定時株主総会)  
 ・賞与額 年額30百万円以内(平成29年8月24日開催の定時株主総会)  
 監査役報酬額  
 ・年額24百万円以内(平成29年8月24日開催の定時株主総会)
3. 上記には、使用人兼務取締役に対する使用人給与、賞与は含まれておりません。なお、当期末の取締役の員数は5名、監査役の員数は3名であります。
4. 退職慰労金は、当事業年度に係る役員退職慰労引当金の繰入額であります。
5. 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等  
 連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

## 株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

20銘柄 449,693千円

ロ．保有目的が純投資以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
前事業年度

## 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)ほくほくフィナンシャルグループ	1,045,600	142,201	取引等の円滑化のため
(株)みちのく銀行	500,000	94,000	取引等の円滑化のため
(株)北洋銀行	200,000	62,800	取引等の円滑化のため
三洋工業(株)	51,077	9,142	取引等の円滑化のため
(株)進学会	13,000	6,760	取引等の円滑化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	3,912	2,166	取引等の円滑化のため
大東建託(株)	30	485	取引等の円滑化のため

## 当事業年度

## 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)ほくほくフィナンシャルグループ	87,460	142,297	取引等の円滑化のため
(株)みちのく銀行	500,000	92,000	取引等の円滑化のため
(株)北洋銀行	200,000	76,400	取引等の円滑化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	176,740	34,075	取引等の円滑化のため
三洋工業(株)	54,386	11,529	取引等の円滑化のため
(株)進学会	13,000	7,436	取引等の円滑化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	3,912	2,702	取引等の円滑化のため
大東建託(株)	40	707	取引等の円滑化のため

なお、前事業年度及び当事業年度において、当社が保有するみなし保有株式はありません。

## 取締役の定数

取締役は、20名以内とする旨を定款第24条で定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとした場合にはその事項及びその理由、取締役会決議事項を株主総会では決議できないことを定款で定めた場合にはその事項及びその理由並びに株主総会の特別決議要件を変更した場合にはその内容及びその理由

イ．自己の株式の取得(定款第7条)

資本政策の機動性を確保するため、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式の取得する旨を定款で定めております。

ロ．取締役及び監査役の責任免除(定款第29条及び第40条)

取締役(取締役であった者含む。)及び監査役(監査役であった者含む。)が、期待される役割を十分に発揮できるよう、会社法第423条第1項の賠償責任について法令に定める要件に該当する場合には、取締役会の決議をもって、法令に定める最低限度額を控除して得た額を限度として免除することができる旨を定款で定めております。

ハ．取締役の選任決議要件(定款第25条)

取締役の選任決議について、株主総会において議決権を行使できる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また、取締役の選任決議について、累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。



## 二．株主総会の特別決議要件（定款第15条）

株主総会において定足数を緩和することにより、円滑な運営を行うために、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

## ホ．中間配当の決定機関（定款第46条）

株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年11月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

## (2) 【監査報酬の内容等】

## 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	39,000	-	47,500	13,888
連結子会社	-	-	-	-
計	39,000	-	47,500	13,888

## 【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

## 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、「内部統制機能の強化及び業務集約による効率化」に関するアドバイザリー業務であります。

## 【監査報酬の決定方針】

監査報酬は、提出された監査計画に基づき監査法人と検討・協議を行い、決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成28年6月1日から平成29年5月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成28年6月1日から平成29年5月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、監査法人等の行う研修会へ参加するなど、社内での情報共有を図っております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	846,502	1,358,904
受取手形及び売掛金	1 3,204,798	1 2,925,827
営業貸付金	2 1,028,825	2 993,941
商品及び製品	4,322,162	4,808,075
販売用不動産	7 2,586,284	2,193,755
原材料及び貯蔵品	1,107,288	1,430,839
未成工事支出金	86,546	126,393
繰延税金資産	132,820	111,754
その他	585,537	672,839
貸倒引当金	169,927	141,107
流動資産合計	13,730,837	14,481,223
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	4, 5, 6, 7 3,158,971	4, 5, 6 3,941,739
機械装置及び運搬具(純額)	4, 5 637,927	4, 5 642,958
賃貸用資産(純額)	4, 6 3,905,484	4, 6 3,632,508
土地	6 3,864,821	6 4,135,391
リース資産(純額)	4 1,179,101	4 1,202,946
その他(純額)	4 256,186	4 58,689
有形固定資産合計	13,002,492	13,614,234
<b>無形固定資産</b>		
のれん	240,542	192,458
その他	7 68,075	299,812
無形固定資産合計	308,617	492,271
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	3, 6 618,698	3, 6 676,454
長期貸付金	189,590	172,620
繰延税金資産	419,874	33,479
その他	909,694	925,336
貸倒引当金	309,704	296,807
投資その他の資産合計	1,828,153	1,511,083
固定資産合計	15,139,264	15,617,589
資産合計	28,870,101	30,098,813

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,616,411	5,615,035
短期借入金	6,978,082	6,10,342,349
リース債務	239,200	316,731
未払法人税等	49,402	154,588
賞与引当金	124,988	133,177
完成工事補償引当金	9,842	8,994
利息返還損失引当金	46,456	27,504
ポイント引当金	66,508	59,912
割賦売上繰延利益	43,987	115,460
その他	1,393,268	1,206,624
流動負債合計	17,373,148	17,980,378
固定負債		
長期借入金	6,491,268	6,5,809,913
長期預り保証金	624,021	648,676
リース債務	1,005,468	1,186,166
役員退職慰労引当金	86,542	105,838
退職給付に係る負債	983,239	919,067
その他	205,903	276,330
固定負債合計	7,817,854	8,945,991
負債合計	25,191,003	26,926,370
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,775,640	1,775,640
資本剰余金	1,953,655	1,944,288
利益剰余金	1,593,092	1,040,130
自己株式	6,1,303,804	6,1,288,310
株主資本合計	4,018,583	3,471,748
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	71,141	30,335
退職給付に係る調整累計額	268,343	268,969
その他の包括利益累計額合計	339,485	299,304
純資産合計	3,679,098	3,172,443
負債純資産合計	28,870,101	30,098,813

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
売上高	40,021,539	40,187,520
売上原価	1,632,064,953	1,632,024,063
売上総利益	7,956,585	8,163,456
割賦売上繰延利益戻入	52,161	43,987
割賦売上繰延利益繰入	43,987	115,460
差引売上総利益	7,964,759	8,091,984
販売費及び一般管理費		
貸倒引当金繰入額	37,528	7,465
給料及び手当	2,643,451	2,692,372
賞与引当金繰入額	95,027	107,648
ポイント引当金繰入額	66,508	59,912
役員退職慰労引当金繰入額	24,033	21,747
減価償却費	649,000	715,353
退職給付費用	129,265	154,754
その他	4,196,178	4,300,225
販売費及び一般管理費合計	7,765,937	8,059,478
営業利益	198,822	32,506
営業外収益		
受取利息	1,919	1,702
受取配当金	29,563	15,044
受取手数料	34,588	34,786
受取保険金	41,192	111,400
受取補償金	-	57,650
その他	91,981	126,547
営業外収益合計	199,243	347,131
営業外費用		
支払利息	206,128	184,511
その他	112,588	55,166
営業外費用合計	318,717	239,677
経常利益	79,348	139,960
特別利益		
固定資産売却益	224,557	211,967
投資有価証券売却益	28,201	287
助成金収入	6,069	-
特別利益合計	58,827	12,254

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	3,465	3,419
固定資産除却損	4,603	31,033
投資有価証券売却損	3,301	1,814
投資有価証券評価損	-	448
関係会社株式評価損	9,900	-
減損損失	542,850	515,014
賃貸借契約解約損	16,845	-
その他	4,047	-
特別損失合計	83,446	187,730
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	54,729	35,515
法人税、住民税及び事業税	81,050	174,758
法人税等調整額	41,690	293,132
法人税等合計	122,740	467,890
当期純損失( )	68,011	503,406
親会社株主に帰属する当期純損失( )	68,011	503,406

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
当期純損失( )	68,011	503,406
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	174,893	40,806
退職給付に係る調整額	106,547	625
その他の包括利益合計	281,440	40,180
包括利益	349,452	463,225
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	349,452	463,225



## 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,775,640	1,953,655	1,724,221	1,303,722	4,149,794
会計方針の変更による累積的影響額					-
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,775,640	1,953,655	1,724,221	1,303,722	4,149,794
当期変動額					
剰余金の配当			63,116		63,116
親会社株主に帰属する当期純損失（ <small>△</small> ）			68,011		68,011
自己株式の取得				82	82
自己株式の処分					-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	131,128	82	131,210
当期末残高	1,775,640	1,953,655	1,593,092	1,303,804	4,018,583

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	103,751	161,796	58,044	4,091,749
会計方針の変更による累積的影響額				-
会計方針の変更を反映した当期首残高	103,751	161,796	58,044	4,091,749
当期変動額				
剰余金の配当				63,116
親会社株主に帰属する当期純損失（ <small>△</small> ）				68,011
自己株式の取得				82
自己株式の処分				-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	174,893	106,547	281,440	281,440
当期変動額合計	174,893	106,547	281,440	412,651
当期末残高	71,141	268,343	339,485	3,679,098

当連結会計年度（自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,775,640	1,953,655	1,593,092	1,303,804	4,018,583
会計方針の変更による累積的影響額			12,983		12,983
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,775,640	1,953,655	1,606,076	1,303,804	4,031,567
当期変動額					
剰余金の配当			62,539		62,539
親会社株主に帰属する当期純損失( )			503,406		503,406
自己株式の取得				15	15
自己株式の処分		9,367		15,509	6,142
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	9,367	565,945	15,494	559,819
当期末残高	1,775,640	1,944,288	1,040,130	1,288,310	3,471,748

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	71,141	268,343	339,485	3,679,098
会計方針の変更による累積的影響額				12,983
会計方針の変更を反映した当期首残高	71,141	268,343	339,485	3,692,081
当期変動額				
剰余金の配当				62,539
親会社株主に帰属する当期純損失( )				503,406
自己株式の取得				15
自己株式の処分				6,142
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	40,806	625	40,180	40,180
当期変動額合計	40,806	625	40,180	519,638
当期末残高	30,335	268,969	299,304	3,172,443

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	54,729	35,515
減価償却費	803,729	887,618
減損損失	42,850	151,014
のれん償却額	48,084	48,084
貸倒引当金の増減額( は減少)	52,574	28,998
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	15,248	41,265
受取利息及び受取配当金	31,482	16,747
支払利息	206,128	184,511
受取保険金	41,192	111,400
受取補償金	-	57,650
有形固定資産売却損益( は益)	24,091	8,548
有形固定資産除却損	6,035	31,033
投資有価証券売却損益( は益)	24,900	1,527
投資有価証券評価損益( は益)	9,900	448
利息返還損失引当金の増減額( は減少)	16,026	18,951
ポイント引当金の増減額( は減少)	1,074	6,596
役員退職慰労引当金の増減額( は減少)	24,043	19,295
売上債権の増減額( は増加)	487,073	396,124
たな卸資産の増減額( は増加)	517,749	247,338
その他の資産の増減額( は増加)	49,989	71,705
仕入債務の増減額( は減少)	869,079	1,375
その他の負債の増減額( は減少)	29,989	56,114
預り保証金の返還による支出額	24,029	28,965
小計	1,245,304	1,071,016
利息及び配当金の受取額	31,586	16,739
利息の支払額	211,406	185,427
保険金の受取額	41,192	111,400
補償金の受取額	-	57,650
法人税等の還付額	-	54,198
法人税等の支払額	164,203	69,572
営業活動によるキャッシュ・フロー	942,473	1,056,004
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	37,090	29,174
定期預金の払戻による収入	107,040	7,000
有形固定資産の取得による支出	1,102,915	1,605,726
有形固定資産の売却による収入	140,732	31,370
投資有価証券の取得による支出	266,388	103,105
投資有価証券の売却による収入	91,007	95,241
貸付けによる支出	8,124	23,284
貸付金の回収による収入	20,481	38,953
投資その他の資産取得による支出	70,337	136,497
投資その他の資産減少による収入	46,441	53,125
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,079,152	1,672,097

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	256,300	330,000
長期借入れによる収入	3,550,000	4,150,000
長期借入金の返済による支出	3,057,422	3,023,500
自己株式の売却による収入	-	6,142
自己株式の取得による支出	82	15
割賦債務の返済による支出	81,430	6,678
ファイナンス・リース債務の返済による支出	240,386	287,089
親会社による配当金の支払額	63,117	62,539
財務活動によるキャッシュ・フロー	148,739	1,106,320
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	285,418	490,227
現金及び現金同等物の期首残高	1,099,969	814,550
現金及び現金同等物の期末残高	1,814,550	1,304,778

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

## 1. 連結の範囲に関する事項

## (1) 連結子会社の数 7社

主要な連結子会社の名称

小泉建設(株)

函館日産自動車(株)

北見日産自動車(株)

(株)テーオー総合サービス

(株)テーオーフォレスト

(株)テーオーデパート

(株)テーオーリテイリング

なお、(株)テーオーフォレスト、(株)テーオーデパート、(株)テーオーリテイリングは、新規設立に伴い当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

## (2) 主要な非連結子会社の名称

(株)テーオーファシリティーズ

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

## 2. 持分法の適用に関する事項

## (1) 持分法を適用した非連結子会社数

該当事項はありません。

## (2) 持分法を適用した関連会社数

該当事項はありません。

## (3) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称

主要な非連結子会社

(株)テーオーファシリティーズ

主要な関連会社

該当事項はありません。

持分法を適用しない理由

持分法非適用会社は、それぞれ当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

## 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は次のとおりであります。

3月決算

函館日産自動車(株)、北見日産自動車(株)

連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。

連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

なお、当連結会計年度より、連結子会社の(株)テーオー総合サービスは決算期を3月31日から5月31日に変更しております。この決算期変更に伴い当連結会計年度において、平成28年4月1日から平成29年5月31日までの14か月を連結し、連結損益計算書を通して調整しておりますが、業績に与える影響は軽微であります。

## 4. 会計方針に関する事項

## (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

時価のないもの

移動平均法による原価法

関係会社株式

移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

たな卸資産

木材事業の商品及び製品並びに原材料及び貯蔵品

主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

流通事業の商品

売価還元法による低価法

自動車関連事業の商品

新車及び中古車は個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）、部品は最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

販売用不動産

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

未成工事支出金

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産除く）

定率法（連結子会社は一部定額法）

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3年～50年

賃貸用資産 4年～50年

無形固定資産（リース資産除く）

定額法

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

金銭債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額により計上しております。

役員退職慰労引当金

役員（執行役員を含む）の退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づき当連結会計年度末までに発生していると認められる額を役員退職慰労引当金として計上しております。

利息返還損失引当金

債務者等から利息制限法の上限金利を超過して支払った利息の返還請求があるが和解に至っていないもの及び過去の返還実績を踏まえ、かつ最近の返還状況を考慮し、返還見込額を合理的に見積もり、計上しております。

ポイント引当金

顧客に付与したポイントの将来の利用に備えるため、当連結会計年度における利用実績率に基づき、将来利用されると見込まれる額のうち、費用負担額を計上しております。

完成工事補償引当金

完成工事に係る瑕疵担保の費用に備えるため、過去2年間の完成工事に係る補修費の実績を基礎にして将来の補修見込額を加味して計上しております。

## (4) 退職給付に係る会計処理の方法

## 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

## 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（8年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日次連結会計年度から費用処理しております。

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により費用処理しております。

## (5) 重要な収益及び費用の計上基準

## 商品及び製品の売上収益の計上基準

商品及び製品の売上収益は、出荷基準により計上しておりますが、流通事業の割賦販売による販売利益の実現については割賦基準（履行期日到来基準）により計上しております。

## 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

イ 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

ロ その他の工事  
工事完成基準

## (6) 重要なヘッジ会計の方法

## ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしているものは、特例処理を採用しております。

## ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・金利スワップ  
ヘッジ対象・・・借入金の利息

## ヘッジ方針

主として当社は、借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。

## ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップは特例処理の要件を満たしているため、有効性の判定を省略しております。

## (7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは20年以内の合理的な償却期間を設定し、定額法により償却をしています。

## (8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

## (9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

## 住宅事業に係る支払利息の処理方法

住宅事業における不動産開発事業について、開発の所要資金を特定の借入金によって調達している長期大型のプロジェクトは、開発の着手から完了までの正常な開発期間に係る支払利息を原価算入することとしております。

当連結会計年度中の原価算入額はありません。なお、当連結会計年度末のたな卸資産残高に含まれている支払利息は60,837千円であります。

## 消費税等の会計処理方法

税抜方式を採用しております。

## (会計方針の変更)

当社の流通事業の一部(衣料品、家具、家電等)における商品の評価方法は、従来、個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっておりましたが、当連結会計年度から、売価還元法による低価法に変更しております。

この変更は、流通事業の一部において使用する基幹システムの更新を契機に、流通事業全般のシステムの業務管理及び内部統制遂行上の効率性について検討した結果、相対的重要性の低下した個別法適用商品について、事業規模が大きいDIY用品等の売価還元法適用商品に併せて業務管理システムを統合することとし、当連結会計年度より新商品管理システムが本稼働したことによるものであります。

当連結会計年度の期首に新商品管理システムが本稼働したことから、過去の連結会計年度に関する商品の当初販売価格と実質販売価格との精緻な差額の把握が一部入手不可能であり、この会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を前連結会計年度の期首時点において算定することは実務上不可能であります。そのため、当該会計方針の変更は、売価還元法に基づく当連結会計年度の期首の商品の帳簿価額と、個別法に基づく前連結会計年度の期末における商品の帳簿価額との差額を基に算定した累積的影響額を、当連結会計年度の期首残高に反映しておりますが、当該影響額は軽微であります。

また、当該変更による商品、売上原価、各段階損益及び1株当たり情報への影響額も軽微であります。



(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当連結会計年度より適用しております。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書)

前連結会計年度において区分掲記しておりました「受取販売手数料」については、明瞭性を高めることを目的として見直した結果、当連結会計年度から受取手数料及び受取販売手数料に区分し、「受取手数料」及び「その他」として掲記することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「受取販売手数料」に含まれておりました受取販売手数料2,731千円は営業外収益の「その他」に組替えております。

## (連結貸借対照表関係)

## 1 割賦売掛金残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
割賦売掛金残高	540,016千円	498,795千円
(注) 割賦売掛金残高は、顧客との契約による未経過割賦利息を含んでおります。		

## 2 当社グループは、クレジットカード業務に付帯する消費者ローン(自社ローン)業務を行っております。当該業務における貸付金は、契約上規定された条件に違反がない限り一定の限度まで貸し付けることを約する契約によるものであり、これらの契約に係る貸付未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
貸付限度額	2,232,900千円	2,045,140千円
当期末貸付残高	985,592	958,862
貸付未実行残高(差引額)	1,247,307	1,086,277
(注) 貸付未実行残高の多くは貸付実行されずに契約が終了するものであるため、当該残高そのものが必ずしも当社グループの将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。		

## 3 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
投資有価証券(株式)	64,841千円	64,841千円

## 4 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
減価償却累計額	14,519,381千円	14,965,448千円

## 5 圧縮記帳額

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
圧縮記帳額	86,269千円	85,489千円
(うち、建物及び構築物)	64,109	64,109
(うち、機械装置及び運搬具)	22,160	21,380

## 6 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
建物及び構築物	1,285,284千円	2,170,306千円
貸貸用資産	1,808,415	1,891,810
土地	2,676,410	3,788,347
投資有価証券	156,800	166,392
自己株式	346,524	346,524
計	6,273,434	8,363,381

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
短期借入金	8,806,054千円	9,357,321千円
長期借入金	4,682,326	5,677,095
計	13,488,380	15,034,416

## 7 資産の保有目的の変更

保有目的の変更により、固定資産の一部を販売用不動産へ振替いたしました。その内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
建物及び構築物	25,882千円	- 千円
無形固定資産(その他)	13,920	-
計	39,802	-

## 8 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
受取手形割引高	1,618,699千円	1,418,101千円

## (連結損益計算書関係)

1 引当金繰入額(別掲しているものを除く)は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
賞与引当金繰入額	26,801千円	25,528千円
完成工事補償引当金繰入額	9,842	8,994

2 固定資産売却益は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
機械装置及び運搬具	1,535千円	510千円
賃貸用資産	20,224	2,298
土地	2,796	9,159
計	24,557	11,967

3 固定資産売却損は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
賃貸用資産	465千円	3,180千円
土地	-	238
計	465	3,419

4 固定資産除却損は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
建物及び構築物	4,904千円	27,192千円
機械装置及び運搬具	418	50
賃貸用資産	707	3,309
その他	4	480
計	6,035	31,033

## 5 減損損失

当社グループは次の資産グループについて減損損失を計上しております。

前連結会計年度（自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日）

場所	用途	種類	減損損失
北海道常呂郡佐呂間町他	営業用資産	建物及び構築物・賃貸用資産・リース資産・その他	38,639千円
北海道桧山郡江差町	遊休資産	土地	4,211千円

当社グループは、原則として事業所ごとに資産のグルーピングを行っております。また、賃貸用資産及び遊休資産は物件ごとにグルーピングを行っております。

資産グループのうち、営業損益が継続してマイナスである事業所又は時価の下落が著しい賃貸用資産、及び遊休資産については帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。

その内訳は、建物及び構築物1,654千円、賃貸用資産7,203千円、リース資産29,315千円、土地4,211千円、その他465千円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い方の金額を使用しております。建物及び土地については不動産鑑定評価額又はそれに準じる方法により評価しており、使用価値の算定に用いる割引率は5%を用いております。

当連結会計年度（自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日）

場所	用途	種類	減損損失
北海道夕張市他	事業用資産	建物及び構築物・機械装置及び運搬具・リース資産・土地・その他	117,021千円
北海道河西郡芽室町他	遊休資産	土地	33,992千円

当社グループは、原則として事業所ごとに資産のグルーピングを行っております。また、賃貸用資産は物件ごとにグルーピングを行っております。

資産グループのうち、営業損益が継続してマイナスである事業所又は時価の下落が著しい賃貸用資産については帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。

その内訳は、建物及び構築物73,806千円、機械装置及び運搬具18,540千円、リース資産12,367千円、土地45,865千円、その他434千円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、建物及び土地については不動産鑑定評価額又はそれに準じる方法により評価しております。

6 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前連結会計年度  
（自 平成27年 6月 1日  
至 平成28年 5月31日）

当連結会計年度  
（自 平成28年 6月 1日  
至 平成29年 5月31日）

44,421千円

110,792千円

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	193,138千円	44,704千円
組替調整額	24,900	1,436
税効果調整前	218,038	43,268
税効果額	43,145	2,461
その他有価証券評価差額金	174,893	40,806
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	214,247千円	19,512千円
組替調整額	67,120	85,925
税効果調整前	147,127	105,438
税効果額	40,580	106,063
退職給付に係る調整額	106,547	625
その他の包括利益合計	281,440	40,180

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当連結会計年度末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式(株)	8,926,896	-	-	8,926,896	
合計	8,926,896	-	-	8,926,896	
自己株式					
普通株式(株)	2,672,852	91	-	2,672,943	(注)
合計	2,672,852	91	-	2,672,943	

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加91株は、単元未満株式の買取りによる増加90株及び子会社所有の親会社株式の増加1株によるものであります。

## 2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

## 3. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年8月20日 定時株主総会	普通株式	63,116	10	平成27年5月31日	平成27年8月21日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当金の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年8月25日 定時株主総会	普通株式	63,115	利益剰余金	10	平成28年5月31日	平成28年8月26日



当連結会計年度（自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当連結会計年度末株式数	摘要
発行済株式					
普通株式（株）	8,926,896	-	-	8,926,896	
合計	8,926,896	-	-	8,926,896	
自己株式					
普通株式（株）	2,672,943	20	10,036	2,662,927	（注）1. 2.
合計	2,672,943	20	10,036	2,662,927	

（注）1. 普通株式の自己株式の株式数の増加20株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少10,036株は、子会社所有の親会社株式の売却によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成28年 8月25日 定時株主総会	普通株式	63,115	10	平成28年 5月31日	平成28年 8月26日

（2）基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当金の原資	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成29年 8月24日 定時株主総会	普通株式	63,115	利益剰余金	10	平成29年 5月31日	平成29年 8月25日

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

## 1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)
現金及び預金勘定	846,502千円	1,358,904千円
預入期間が3か月を超える定期預金	31,951	54,126
現金及び現金同等物	814,550	1,304,778

## 2. 重要な非資金取引の内容

## ファイナンス・リース取引に係る資産及び負債の額

	前連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)
ファイナンス・リース取引に係る資産の額	783,623千円	523,636千円
ファイナンス・リース取引に係る負債の額	798,946	565,526

## (リース取引関係)

## (借主側)

## 1. ファイナンス・リース取引

## 所有権移転外ファイナンス・リース取引

## リース資産の内容

## 有形固定資産

主として営業用の建物及び構築物、機械装置及び運搬具、工具、器具及び備品であります。

## リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

## 2. オペレーティング・リース取引

## オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
1年内	-	36,000
1年超	-	132,000
合計	-	168,000

## (貸主側)

## 1. ファイナンス・リース取引

貸手としてのリース取引は重要性が乏しいため、注記を省略しております。

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については有価証券管理規程に基づくものに限定し、資金調達については銀行借入による方針であります。デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、部門ごと取引先の期日管理を行なうとともに、木材事業は債権遅延理由書、流通事業は債権回収会議を実施して個別に把握する体制としております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。当該リスクに関しては、定期的に時価を把握し統括管理本部長に報告する体制としております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほぼ全てが4ヶ月以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は最長で決算日後5年であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されております。このうち一部については、デリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした為替先渡契約、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、債権管理規程に従い、各部門における担当部署が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社グループは、外貨建ての営業債権債務の為替変動リスクの一部について、為替先渡契約等を利用しリスクの低減を図っております。また、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握しております。デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた規程に従い、担当部署が統括管理本部の承認を得て行なっております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、各社が月次に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成28年5月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	846,502	846,502	-
(2) 受取手形及び売掛金	3,204,798		
貸倒引当金(*1)	14,468		
	3,190,329	3,190,329	-
(3) 投資有価証券			
其他有価証券	368,554	368,554	-
資産計	4,405,386	4,405,386	-
(1) 支払手形及び買掛金	5,616,411	5,616,411	-
(2) 短期借入金	7,197,000	7,197,000	-
(3) 長期借入金(*2)	7,498,762	7,496,128	2,633
負債計	20,312,173	20,309,539	2,633
デリバティブ取引(*3)	4,728	4,728	-

(\*1) 割賦売掛金に対応する貸倒引当金を控除しております。

(\*2) 1年以内に返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めております。

(\*3) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

当連結会計年度(平成29年5月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,358,904	1,358,904	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,925,827		
貸倒引当金(*1)	12,537		
	2,913,289	2,913,289	-
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	476,739	476,739	-
資産計	4,748,933	4,748,933	-
(1) 支払手形及び買掛金	5,615,035	5,615,035	-
(2) 短期借入金	7,527,000	7,527,000	-
(3) 長期借入金(*2)	8,625,262	8,602,581	22,680
負債計	21,767,297	21,744,617	22,680
デリバティブ取引(*3)	2,030	2,030	-

(\*1) 割賦売掛金に対応する貸倒引当金を控除しております。

(\*2) 1年以内に返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めております。

(\*3) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

#### 資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

割賦売掛金を除き、これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

割賦売掛金については、決済が長期間に亘る債権であるため、将来キャッシュ・フローを市場金利等の指標で割り引いた現在価値により算定しております。また、貸倒引当金が信用リスクを適切に考慮していると考え、当該割引現在価値から貸倒引当金を控除した金額としております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。

#### 負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。また、変動金利による長期借入金の一部は金利スワップの特例処理の対象とされており、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。

#### デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

## 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
非上場株式	185,302	134,873
関係会社株式	64,841	64,841
合計	250,143	199,715

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

## 3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成28年5月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	846,502	-	-	-
受取手形及び売掛金	2,773,830	426,396	4,571	-
合計	3,620,332	426,396	4,571	-

当連結会計年度(平成29年5月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,358,904	-	-	-
受取手形及び売掛金	2,527,318	394,176	4,332	-
合計	3,886,223	394,176	4,332	-

## 4. 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成28年5月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
短期借入金	7,197,000	-	-	-
長期借入金	2,586,082	4,912,680	-	-
合計	9,783,082	4,912,680	-	-

当連結会計年度(平成29年5月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
短期借入金	7,527,000	-	-	-
長期借入金	2,815,349	5,809,913	-	-
合計	10,342,349	5,809,913	-	-



## (有価証券関係)

## 1. その他有価証券

前連結会計年度(平成28年5月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	127,200	93,389	33,810
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	127,200	93,389	33,810
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	241,354	350,085	108,731
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	241,354	350,085	108,731
合計		368,554	443,475	74,920

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 185,302千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記の「その他有価証券」には含まれておりません。

## 当連結会計年度(平成29年5月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	133,980	94,184	39,796
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	133,980	94,184	39,796
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	294,540	364,694	70,153
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	48,217	49,513	1,295
	小計	342,758	414,207	71,449
合計		476,739	508,392	31,652

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 134,873千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記の「その他有価証券」には含まれておりません。

## 2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
(1) 株式	53,209	28,201	117
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	46,732	-	3,183
合計	99,941	28,201	3,301

当連結会計年度(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
(1) 株式	36,399	6	1,442
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	50,261	281	372
合計	86,661	287	1,814

## 3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

当連結会計年度においては、関係会社株式について9,900千円減損処理を行っております。

なお、その他有価証券の減損にあたり、時価のあるものについては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

また、関係会社株式については、当該株式の発行会社の財政状態等を勘案した上で、回復可能性を検討し、回復可能性のないものについては減損処理を行っております。

当連結会計年度(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)

当連結会計年度においては、非上場株式について428千円減損処理を行っております。

なお、その他有価証券の減損にあたり、時価のあるものについては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

また、関係会社株式については、当該株式の発行会社の財政状態等を勘案した上で、回復可能性を検討し、回復可能性のないものについては減損処理を行っております。

## (デリバティブ取引関係)

## 1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

## 金利関係

前連結会計年度(平成28年5月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引以外の取引	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	380,000	280,000	4,728	4,728
合計		380,000	280,000	4,728	4,728

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成29年5月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引以外の取引	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	210,000	130,000	2,030	2,030
合計		210,000	130,000	2,030	2,030

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

## 2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

## 金利関連

前連結会計年度(平成28年5月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ 対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの 特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	695,900	361,200	(注)
合計			695,900	361,200	

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成29年5月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ 対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
金利スワップの 特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	431,200	140,000	(注)
合計			431,200	140,000	

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

## (退職給付関係)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を採用しております。

なお、一部の連結子会社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。また、一部の連結子会社は確定拠出年金制度を設けており、また中小企業退職金共済制度(中退共)に加入しております。

## 2. 確定給付制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
退職給付債務の期首残高	1,492,166千円	1,654,659千円
勤務費用	77,664	87,218
利息費用	10,251	2,390
数理計算上の差異の発生額	183,973	23,560
退職給付の支払額	109,397	153,730
退職給付債務の期末残高	1,654,659	1,566,977

## (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く)

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
年金資産の期首残高	726,224千円	714,036千円
期待運用収益	17,460	17,040
数理計算上の差異の発生額	30,274	4,048
事業主からの拠出額	101,914	99,636
退職給付の支払額	101,289	141,442
年金資産の期末残高	714,036	685,223

## (3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	54,921千円	42,616千円
退職給付費用	13,402	9,762
退職給付の支払額	8,632	3,263
制度への拠出額	17,074	11,803
退職給付に係る負債の期末残高	42,616	37,312

## (4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
積立型制度の退職給付債務	1,840,148千円	1,753,047千円
年金資産	856,909	833,980
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	983,239	919,067
退職給付に係る負債	983,239	919,067
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	983,239	919,067

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

## (5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自平成27年6月1日 至平成28年5月31日)	当連結会計年度 (自平成28年6月1日 至平成29年5月31日)
勤務費用	77,664千円	87,218千円
利息費用	10,251	2,390
期待運用収益	17,460	17,040
数理計算上の差異の費用処理額	67,120	85,925
簡便法で計算した退職給付費用	13,402	9,762
確定給付制度に係る退職給付費用	150,978	168,256

## (6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成27年6月1日 至平成28年5月31日)	当連結会計年度 (自平成28年6月1日 至平成29年5月31日)
数理計算上の差異	147,127千円	105,438千円
合計	147,127	105,438

## (7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
未認識数理計算上の差異	386,105千円	280,667千円

## (8) 年金資産に関する事項

## 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
債券	31%	31%
株式	12	13
生保一般勘定	40	40
その他	17	16
合 計	100	100

## 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

## 当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
割引率	主として0.088%	主として0.367%
長期期待運用収益率	主として1.5%	主として1.5%

(注) 退職給付債務の算出にあたり、主として予想昇給率を織り込まない方法を採用しております。

## 3. 確定拠出制度

一部の連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度4,180千円、当連結会計年度7,359千円であります。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
繰延税金資産		
たな卸資産評価損	598,313千円	578,881千円
貸倒引当金	148,700	139,620
減価償却費	190,634	228,430
退職給付に係る負債	309,630	321,666
繰越欠損金	126,774	162,368
未払事業税	3,635	13,954
未実現利益	16,818	26,086
ポイント引当金	20,418	18,391
有価証券評価損	20,112	-
減損損失	277,673	295,218
資産除去債務	50,004	76,017
有価証券評価差額金	1,097	29,643
関係会社株式評価損	3,395	-
その他	176,197	124,255
繰延税金資産小計	1,943,405	2,014,534
評価性引当額	1,329,813	1,823,368
繰延税金資産合計	613,592	191,166
繰延税金負債		
特別償却準備金	56,507	45,526
その他	34,476	24,689
繰延税金負債合計	90,984	70,215
繰延税金資産の純額	522,608	120,950

繰延税金資産、繰延税金負債は次の項目に含まれております。

流動資産 - 繰延税金資産	132,820千円	111,754千円
固定資産 - 繰延税金資産	419,874	33,479
固定負債 - その他	30,086	24,283



2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年5月31日)	当連結会計年度 (平成29年5月31日)
法定実効税率 (調整)	32.8%	当連結会計年度は税金等調整前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。
交際費等永久に損金に算入されない項目	59.0	
受取配当金益金不算入	3.4	
住民税均等割	45.5	
のれん償却費	28.8	
税額控除	12.8	
評価性引当額の増減額	45.7	
税率変更による期末繰延税金資産の増減	33.9	
その他	5.3	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	224.2	

## (資産除去債務関係)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## (賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、北海道函館市その他の地域において、賃貸収入を得ることを目的として賃貸オフィスビルや賃貸商業施設を所有しております。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	4,518,147	4,390,037
期中増減額	128,110	293,663
期末残高	4,390,037	4,096,373
期末時価	5,357,266	5,304,915

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な減少額の内容は売却であり、当連結会計年度の主な減少額の内容は使用目的の変更による振替額であります。

3. 期末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による「不動産鑑定評価基準」に基づく鑑定評価額であり、その他の物件については固定資産税評価額、路線価等の指標に基づく時価であります。

また、賃貸等不動産に関する損益は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
賃貸等不動産		
賃貸収入	533,237	526,449
賃貸費用	269,446	311,435
差額	263,790	215,014
売却益	23,021	10,957
売却損	465	3,180
減損損失	11,414	33,992

(注) 賃貸等不動産に係る費用(減価償却費、修繕費、保険料、租税公課等)については、賃貸費用に含まれております。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行なう対象となっているものであります。

当社は事業を市場分野別に区分し、「木材」、「流通」、「住宅」、「建設」、「不動産賃貸」、「自動車関連」、「スポーツクラブ」の7つを報告セグメントとしております。

各セグメントの主な事業の内容は、次のとおりであります。

「木材」は、フローリング(床板)の製造及び施工販売、家具、床材用広葉樹製材、建築用針葉樹製材、一般建築用建材の販売、合板の製造及び販売を行っております。

「流通」は、衣料品、家具、家電、家庭用品、DIY用品、食料品の販売、携帯電話代理店業、消費者ローン(自社ローン)を行っております。

「住宅」は、戸建住宅の施工販売、マンション及び宅地の販売を行っております。

「建設」は、土木建築工事を行っております。

「不動産賃貸」は、不動産賃貸業を行っております。

「自動車関連」は、自動車販売及び自動車修理を行っております。

「スポーツクラブ」は、スポーツクラブ及びスイミングクラブの運営を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当連結会計年度より、「その他」に含まれていた「スポーツクラブ」については、量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前連結会計年度のセグメント情報については変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

## 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成のために採用される会計方針に準拠した方法であります。

報告セグメントの利益は営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

4. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度(自平成27年6月1日至平成28年5月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント							
	木材	流通	住宅	建設	不動産 賃貸	自動車関連	スポーツ クラブ	計
売上高								
外部顧客への売上高	11,153,974	15,073,785	1,029,323	2,684,525	519,740	8,410,211	182,109	39,053,671
セグメント間の内部売上高又は振替高	26,003	-	216	9,586	9,617	22,703	-	68,127
計	11,179,978	15,073,785	1,029,539	2,694,111	529,358	8,432,915	182,109	39,121,798
セグメント利益又は損失( )	44,760	32,030	98,054	145,311	216,021	33,924	6,861	277,611
セグメント資産	4,996,693	9,284,793	2,870,029	1,357,120	4,421,012	3,233,825	382,087	26,545,563
その他の項目								
減価償却費(注)2	52,050	319,204	2,095	7,435	90,155	235,607	6,442	712,990
減損損失	-	5,934	-	-	11,414	25,501	-	42,850
のれんの償却費	-	-	-	-	-	48,084	-	48,084
有形固定資産及び無形固定資産の増加額(注)2	26,020	403,688	6,240	10,800	59,892	1,325,027	527	1,832,197

	その他 (注)1	合計
売上高		
外部顧客への売上高	967,868	40,021,539
セグメント間の内部売上高又は振替高	24,853	92,981
計	992,721	40,114,520
セグメント利益又は損失( )	2,230	279,842
セグメント資産	1,448,564	27,994,127
その他の項目		
減価償却費(注)2	78,463	791,454
減損損失	-	42,850
のれんの償却費	-	48,084
有形固定資産及び無形固定資産の増加額(注)2	167,839	2,000,037

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ケアサービス事業等を含んでおります。

2. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額及び減価償却費には、長期前払費用と同費用に係る償却額が含まれております。

当連結会計年度（自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント							
	木材	流通	住宅	建設	不動産 賃貸	自動車関連	スポーツ クラブ	計
売上高								
外部顧客への売上高	10,368,221	14,715,512	1,395,945	3,327,322	512,914	8,610,439	143,863	39,074,220
セグメント間の内部売上高又は振替高	63,668	-	-	553,945	9,962	11,646	-	639,223
計	10,431,890	14,715,512	1,395,945	3,881,268	522,876	8,622,086	143,863	39,713,443
セグメント利益又は損失（ ）	133,794	308,364	116,624	182,958	209,181	104,446	77,932	93,118
セグメント資産	5,130,783	10,155,504	2,471,642	1,297,418	4,127,263	3,455,872	1,169,972	27,808,456
その他の項目								
減価償却費（注）2	50,925	376,063	3,766	6,326	93,034	238,274	21,420	789,811
減損損失	72,262	23,819	-	-	33,992	-	20,939	151,014
のれんの償却費	-	-	-	-	-	48,084	-	48,084
有形固定資産及び無形固定資産の増加額（注）2	26,476	875,342	5,891	7,746	136,972	505,415	849,165	2,407,010

	その他 （注）1	合計
売上高		
外部顧客への売上高	1,113,299	40,187,520
セグメント間の内部売上高又は振替高	28,156	667,379
計	1,141,456	40,854,899
セグメント利益又は損失（ ）	37,692	130,811
セグメント資産	1,354,865	29,163,321
その他の項目		
減価償却費（注）2	81,641	871,453
減損損失	-	151,014
のれんの償却費	-	48,084
有形固定資産及び無形固定資産の増加額（注）2	5,113	2,412,123

（注）1．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ケアサービス事業等を含んでおります。

2．有形固定資産及び無形固定資産の増加額及び減価償却費には、長期前払費用と同費用に係る償却額が含まれております。

5. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	39,121,798	39,713,443
「その他」の区分の売上高	992,721	1,141,456
セグメント間取引消去	92,981	667,379
連結財務諸表の売上高	40,021,539	40,187,520

（単位：千円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	277,611	93,118
「その他」の区分の利益	2,230	37,692
セグメント間取引消去	4,947	25,022
全社費用（注）	85,967	73,282
連結財務諸表の営業利益	198,822	32,506

（注） 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

（単位：千円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	26,545,563	27,808,456
「その他」の区分の資産	1,448,564	1,354,865
債権の相殺消去	1,527,988	1,511,660
全社資産（注）	2,403,962	2,447,152
連結財務諸表の資産合計	28,870,101	30,098,813

（注） 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない投資有価証券、有形固定資産であります。

（単位：千円）

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	712,990	789,811	78,463	81,641	12,274	16,164	803,729	887,618
減損損失	42,850	151,014	-	-	-	-	42,850	151,014
のれんの償却額	48,084	48,084	-	-	-	-	48,084	48,084
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,832,197	2,407,010	167,839	5,113	51,923	307,740	2,051,961	2,104,383

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在する有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

主要な顧客の区分の外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高で連結損益計算書の売上高の10%以上を占めているものがないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在する有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

主要な顧客の区分の外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高で連結損益計算書の売上高の10%以上を占めているものがないため、記載を省略しております。

## 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント								その他	合計
	木材	流通	住宅	建設	不動産 賃貸	自動車 関連	スポーツ クラブ	計		
減損損失	-	5,934	-	-	11,414	25,501	-	42,850	-	42,850

当連結会計年度（自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント								その他	合計
	木材	流通	住宅	建設	不動産 賃貸	自動車 関連	スポーツ クラブ	計		
減損損失	72,262	23,819	-	-	33,992	-	20,939	151,014	-	151,014

## 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント								その他	合計
	木材	流通	住宅	建設	不動産 賃貸	自動車 関連	スポーツ クラブ	計		
当期償却額	-	-	-	-	-	48,084	-	48,084	-	48,084
当期末残高	-	-	-	-	-	240,542	-	240,542	-	240,542

当連結会計年度（自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント								その他	合計
	木材	流通	住宅	建設	不動産 賃貸	自動車 関連	スポーツ クラブ	計		
当期償却額	-	-	-	-	-	48,084	-	48,084	-	48,084
当期末残高	-	-	-	-	-	192,458	-	192,458	-	192,458

## 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日）

該当事項はありません。



## 【関連当事者情報】

## 1. 関連当事者との取引

## (1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	青森木材防腐(株)	青森県上北郡	95,000	製材業	-		建物の賃借	40,440	前払費用 流動資産 「その他」 長期差入 保証金	3,963 2,604 15,547
							商品の販売及び増改築工事	38,920	受取手形 売掛金	2,669 3,754

(注) 1. 建物の賃借に関しては、近隣の取引実勢相場に基づいて決定しております。

2. 商品の販売及び増改築工事については、市場価格等を勘案し一般取引と同様に決定しております。

3. 当社代表取締役社長小笠原康正の近親者が議決権の過半数を所有している会社であります。

当連結会計年度（自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	青森木材防腐(株)	青森県上北郡	95,000	製材業	-		建物の賃借	40,440	前払費用 流動資産 「その他」 長期差入 保証金	3,963 2,604 12,943
							商品の販売	4,765	受取手形 売掛金	1,167 903

(注) 1. 建物の賃借に関しては、近隣の取引実勢相場に基づいて決定しております。

2. 商品の販売については、市場価格等を勘案し一般取引と同様に決定しております。

3. 当社代表取締役社長小笠原康正の近親者が議決権の過半数を所有している会社であります。

## (2)連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	青森木材防腐(株)	青森県上北郡	95,000	製材業	-	(株)テーオー総合サービスとのリース契約	営業用資産のリース契約(注)1	772	流動資産「その他」 投資その他の資産「その他」	2,501 14,173

(注)1. 取引条件及び取引条件の決定方針等については、一般取引と同様に決定しております。

2. 当社代表取締役社長小笠原康正の近親者が議決権の過半数を所有している会社であります。

当連結会計年度(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	青森木材防腐(株)	青森県上北郡	95,000	製材業	-	(株)テーオー総合サービスとのリース契約	営業用資産のリース契約(注)1	2,702	流動資産「その他」 投資その他の資産「その他」	2,501 11,255

(注)1. 取引条件及び取引条件の決定方針等については、一般取引と同様に決定しております。

2. 当社代表取締役社長小笠原康正の近親者が議決権の過半数を所有している会社であります。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

## ( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)
1株当たり純資産額	588.28円	506.46円
1株当たり当期純損失金額( )	10.87円	80.40円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)
親会社株主に帰属する当期純損失金額( ) (千円)	68,011	503,406
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純損失金額( )(千円)	68,011	503,406
期中平均株式数(株)	6,254,013	6,260,894

(重要な後発事象)

(会社分割による持株会社体制への移行)

当社は、平成28年7月14日開催の取締役会の決議に基づき、平成29年6月1日付で「木材事業、住宅事業」を「株式会社テーオーフォレスト」、「流通事業(百貨店事業)」を「株式会社テーオーデパート」、「流通事業(ホームセンター事業)」を「株式会社テーオーリテイリング」、「ケアサービス事業及びスポーツクラブ事業」を既存の100%子会社「株式会社テーオー総合サービス」へそれぞれ継承する会社分割により、持株会社体制へ移行しました。

なお、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として処理します。

## 【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

該当事項はありません。

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	7,197,000	7,527,000	0.9	-
1年以内に返済予定の長期借入金	2,586,082	2,815,349	1.2	-
1年以内に返済予定のリース債務	239,200	316,731	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	4,912,680	5,809,913	1.2	平成30年～34年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,005,468	1,186,166	-	平成30年～48年
合計	15,940,431	17,655,160	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における返済予定額は、次のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	2,350,760	1,703,660	1,188,712	566,781
リース債務	287,375	193,648	159,218	141,394

## 【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

## (2)【その他】

## 当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	9,458,496	20,015,893	29,667,802	40,187,520
税金等調整前四半期純利益金額又は税金等調整前当期純損失金額( )(千円)	298,312	402,950	307,997	35,515
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する当期純損失金額( )(千円)	238,295	272,906	148,690	503,406
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額( )(円)	38.10	43.61	23.75	80.40

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )(円)	38.10	5.53	19.83	104.10

決算日後の状況

特記事項はありません。

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当事業年度 (平成29年5月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	315,247	380,828
受取手形	284,780	338,671
売掛金	3 1,979,372	1,806,706
営業貸付金	4, 5 985,592	4, 5 958,862
商品及び製品	3,710,600	4,120,664
販売用不動産	6 2,586,284	2,193,755
未成工事支出金	14,660	30,298
原材料及び貯蔵品	1,071,534	1,381,345
前渡金	103,175	104,559
前払費用	57,883	61,763
繰延税金資産	95,930	67,522
立替金	34,657	31,258
その他	190,068	301,538
貸倒引当金	133,287	133,927
流動資産合計	11,296,501	11,643,847
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	1, 2, 6 2,922,189	1, 2 3,697,429
構築物	6 69,343	89,025
機械及び装置	1 66,530	1 34,403
車両運搬具	1 20,051	20,734
工具、器具及び備品	34,509	36,812
賃貸用資産	2 3,819,420	2 3,553,696
土地	2 4,189,181	2 4,459,751
リース資産	377,460	427,954
建設仮勘定	213,947	12,960
有形固定資産合計	11,712,633	12,332,769
<b>無形固定資産</b>		
借地権	6 23,000	23,000
電話加入権	18,194	18,194
リース資産	-	213,768
その他	17,526	36,412
無形固定資産合計	58,720	291,375
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2 450,529	2 449,693
関係会社株式	766,483	1,066,483
出資金	32,388	31,020
長期貸付金	3 158,222	3 143,657
更生債権等	284,065	267,130
長期前払費用	31,350	31,372
長期差入保証金	401,009	433,867
保険積立金	14,818	16,680
繰延税金資産	264,931	-
その他	25,878	32,026
貸倒引当金	273,757	264,166
投資その他の資産合計	2,155,918	2,207,763
固定資産合計	13,927,273	14,831,908
資産合計	25,223,774	26,475,756

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当事業年度 (平成29年5月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	3 2,292,319	3 2,280,341
買掛金	1,933,462	2,055,853
短期借入金	2, 3 7,187,000	2, 3 7,487,000
1年内返済予定の長期借入金	2 2,569,034	2 2,800,301
リース債務	107,937	162,148
未払金	127,203	78,467
未払費用	318,936	323,416
未払法人税等	17,481	38,448
未払消費税等	77,638	24,634
前受金	3 133,386	121,364
預り金	79,648	77,488
設備関係支払手形	98,955	-
完成工事補償引当金	9,603	8,630
利息返還損失引当金	46,456	27,504
ポイント引当金	66,508	59,912
割賦売上繰延利益	43,987	115,460
その他	151,401	132,866
流動負債合計	15,260,960	15,793,838
<b>固定負債</b>		
長期借入金	2 4,887,366	2 5,802,155
退職給付引当金	392,000	440,376
役員退職慰労引当金	39,644	49,507
長期預り保証金	620,941	645,596
リース債務	302,098	542,888
資産除去債務	67,222	152,151
その他	17,528	36,660
固定負債合計	6,326,801	7,669,337
負債合計	21,587,762	23,463,175
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	1,775,640	1,775,640
資本剰余金		
資本準備金	1,167,443	1,167,443
その他資本剰余金	786,212	786,212
資本剰余金合計	1,953,655	1,953,655
利益剰余金		
その他利益剰余金		
別途積立金	20,500	20,500
特別償却準備金	10,859	9,049
繰越利益剰余金	1,127,843	470,145
利益剰余金合計	1,159,203	499,695
自己株式	2 1,180,766	2 1,180,781
株主資本合計	3,707,732	3,048,209
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	71,720	35,628
評価・換算差額等合計	71,720	35,628
純資産合計	3,636,012	3,012,580
負債純資産合計	25,223,774	26,475,756



## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当事業年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
売上高	6 28,350,719	6 27,622,765
売上原価	6 22,911,926	6 22,102,901
売上総利益	5,438,792	5,519,864
割賦売上繰延利益戻入	1 52,161	1 43,987
割賦売上繰延利益繰入	1 43,987	1 115,460
差引売上総利益	5,446,966	5,448,391
販売費及び一般管理費	2, 6 5,462,089	2, 6 5,705,818
営業損失( )	15,123	257,426
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	6 179,625	6 93,612
受取保険金	34,851	111,400
その他	109,136	150,485
営業外収益合計	323,613	355,498
営業外費用		
支払利息	6 192,091	6 170,827
その他	62,355	24,094
営業外費用合計	254,447	194,921
経常利益又は経常損失( )	54,043	96,849
特別利益		
投資有価証券売却益	28,201	6
固定資産売却益	3 24,080	3 11,967
助成金収入	6,069	-
特別利益合計	58,350	11,973
特別損失		
固定資産売却損	4 465	4 3,419
固定資産除却損	5 1,477	5 26,442
投資有価証券売却損	117	1,442
投資有価証券評価損	-	448
減損損失	17,349	151,014
賃貸借契約解約損	16,845	-
特別損失合計	36,256	182,766
税引前当期純利益又は税引前当期純損失( )	76,137	267,642
法人税、住民税及び事業税	14,411	19,887
法人税等調整額	12,078	321,846
法人税等合計	26,490	341,734
当期純利益又は当期純損失( )	49,647	609,376

## 【住宅事業の売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)		当事業年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
外注費		628,968	71.5	704,787	86.6
労務費		34,888	4.0	33,947	4.2
経費		23,868	2.7	19,242	2.4
販売用不動産購入費		192,044	21.8	56,183	6.8
計		879,769	100.0	814,160	100.0
未成工事支出金期首たな卸高		12,272		14,660	
未成工事支出金期末たな卸高		14,660		30,298	
完成工事原価		877,382		798,523	
販売用不動産期首たな卸高		2,678,510		2,586,284	
他勘定振替高		85,142		110,729	
他勘定受入高		41,202		9,389	
販売用不動産期末たな卸高		2,586,284		2,193,755	
住宅事業売上原価		925,668		1,089,713	

(注) 1. 原価計算の方法は、工事ごとに実際原価による個別原価計算の方法によっております。

2. 経費の中に含まれる主な費目は次のとおりであります。

完成工事補償引当金繰入 9,603千円  
減価償却費 6千円

3. 他勘定振替高の内容は次のとおりであります。

賃貸用資産に係る修繕費 85,142千円

4. 他勘定受入高の内容は次のとおりであります。

土地造成費 1,400千円  
固定資産から販売用不動産への振替額 39,802千円

(注) 1. 同左

2. 経費の中に含まれる主な費目は次のとおりであります。

完成工事補償引当金繰入 8,630千円  
減価償却費 17千円

3. 他勘定振替高の内容は次のとおりであります。

賃貸用資産に係る修繕費 87,716千円  
販売用不動産から固定資産への振替額 23,012千円

4. 他勘定受入高の内容は次のとおりであります。

土地造成費 9,389千円

## 【その他事業原価明細書】

区分	前事業年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)		当事業年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	
	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
労務費	209,901	32.2	210,634	30.8
減価償却費	135,351	20.8	151,703	22.1
その他経費	305,921	47.0	322,846	47.1
小計	651,174	100.0	685,183	100.0
期首商品たな卸高	4,782		4,298	
当期商品仕入高	52,377		56,855	
計	708,334		746,337	
期末商品たな卸高	4,298		4,051	
その他事業原価	704,036		742,285	

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			利益剰余金合計
					別途積立金	特別償却準備金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,775,640	1,167,443	786,212	1,953,655	20,500	11,776	1,140,396	1,172,673
会計方針の変更による累積的影響額								-
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,775,640	1,167,443	786,212	1,953,655	20,500	11,776	1,140,396	1,172,673
当期変動額								
剰余金の配当							63,116	63,116
特別償却準備金の積立						893	893	-
特別償却準備金の取崩						1,809	1,809	-
当期純利益							49,647	49,647
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	916	12,552	13,469
当期末残高	1,775,640	1,167,443	786,212	1,953,655	20,500	10,859	1,127,843	1,159,203

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,180,684	3,721,284	84,926	84,926	3,806,210
会計方針の変更による累積的影響額		-			-
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,180,684	3,721,284	84,926	84,926	3,806,210
当期変動額					
剰余金の配当		63,116			63,116
特別償却準備金の積立		-			-
特別償却準備金の取崩		-			-
当期純利益		49,647			49,647
自己株式の取得	82	82			82
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			156,646	156,646	156,646
当期変動額合計	82	13,551	156,646	156,646	170,198
当期末残高	1,180,766	3,707,732	71,720	71,720	3,636,012

当事業年度（自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日）

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			利益剰余金合計
					別途積立金	特別償却準備金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,775,640	1,167,443	786,212	1,953,655	20,500	10,859	1,127,843	1,159,203
会計方針の変更による累積的影響額							12,983	12,983
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,775,640	1,167,443	786,212	1,953,655	20,500	10,859	1,140,827	1,172,187
当期変動額								
剰余金の配当							63,115	63,115
特別償却準備金の積立								-
特別償却準備金の取崩						1,809	1,809	-
当期純損失（ ）							609,376	609,376
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	1,809	670,682	672,492
当期末残高	1,775,640	1,167,443	786,212	1,953,655	20,500	9,049	470,145	499,695

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,180,766	3,707,732	71,720	71,720	3,636,012
会計方針の変更による累積的影響額		12,983			12,983
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,180,766	3,720,716	71,720	71,720	3,648,996
当期変動額					
剰余金の配当		63,115			63,115
特別償却準備金の積立		-			-
特別償却準備金の取崩		-			-
当期純損失（ ）		609,376			609,376
自己株式の取得	15	15			15
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			36,091	36,091	36,091
当期変動額合計	15	672,507	36,091	36,091	636,416
当期末残高	1,180,781	3,048,209	35,628	35,628	3,012,580

## 【注記事項】

## (重要な会計方針)

## 1. 資産の評価基準及び評価方法

## (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

関係会社株式.....移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの.....決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの.....移動平均法による原価法

## (2) デリバティブの評価基準及び評価方法

デリバティブ.....時価法

## (3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

木材事業の商品及び製品並びに原材料及び貯蔵品

.....移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

流通事業の商品.....売価還元法による低価法

販売用不動産.....個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

未成工事支出金.....個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

## 2. 固定資産の減価償却の方法

## (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3年～50年

賃貸用資産 4年～50年

## (2) 無形固定資産(リース資産除く)

定額法

## (3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法

## 3. 引当金の計上基準

## (1) 貸倒引当金

金銭債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

## (2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(12年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(8年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

## (3) 役員退職慰労引当金

役員(執行役員を含む)の退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づき当事業年度末までに発生していると認められる額を役員退職慰労引当金として計上しております。

## (4) 利息返還損失引当金

債務者等から利息制限法の上限金利を超過して支払った利息の返還請求があるが和解に至っていないもの及び過去の返還実績を踏まえ、かつ最近の返還状況を考慮し、返還見込額を合理的に見積もり、計上しております。

## (5) ポイント引当金

顧客に付与したポイントの将来の利用に備えるため、当事業年度における利用実績率に基づき、将来利用されると見込まれる額のうち、費用負担額を計上しております。

## (6) 完成工事補償引当金

完成工事に係る瑕疵担保の費用に備えるため、過去2年間の完成工事に係る補修費の実績を基礎にして将来の補修見込額を加味して計上しております。

## 4. 収益の計上基準

## 商品の売上収益の計上基準

商品の売上収益は、出荷基準により計上しておりますが、流通事業の割賦販売による販売利益の実現については割賦基準(履行期日到来基準)により計上しております。

## 5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

## (1) 住宅事業に係る支払利息の処理方法

住宅事業における不動産開発事業について、開発の所要資金を特定の借入金によって調達している長期大型のプロジェクトは、開発の着手から完了までの正常な開発期間の支払利息を原価算入することとしております。

当期中の原価算入額はありません。

なお、当期末のたな卸資産残高に含まれている支払利息は60,837千円であります。

## (2) ヘッジ会計の方法

## ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしているものは、特例処理を採用しております。

## ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・金利スワップ

ヘッジ対象・・・借入金の利息

## ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。

## ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、有効性の判定を省略しております。

## (3) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

## (4) 消費税等の会計処理方法

税抜方式を採用しております。

## (会計方針の変更)

当事業年度(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)

当社の流通事業の一部(衣料品、家具、家電等)における商品の評価方法は、従来、個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっておりましたが、当事業年度から、売価還元法による低価法に変更しております。

この変更は、流通事業の一部において使用する基幹システムの更新を契機に、流通事業全般のシステムの業務管理及び内部統制遂行上の効率性について検討した結果、相対的重要性の低下した個別法適用商品について、事業規模が大きいDIY用品等の売価還元法適用商品に併せて業務管理システムを統合することとし、当事業年度より新商品管理システムが本稼働したことによるものであります。

当事業年度の期首に新商品管理システムが本稼働したことから、過去の事業年度に関する商品の当初販売価格と実質販売価格との精緻な差額の把握が一部入手不可能であり、この会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を前事業年度の期首時点において算定することは実務上不可能であります。そのため、当該会計方針の変更は、売価還元法に基づく当事業年度の期首の商品の帳簿価額と、個別法に基づく前事業年度の期末における商品の帳簿価額との差額を基に算定した累積的影響額を、当事業年度の期首残高に反映しておりますが、当該影響額は軽微であります。

また、当該変更による商品、売上原価、各段階損益及び1株当たり情報への影響額も軽微であります。



(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度より適用しております。

## (貸借対照表関係)

## 1 圧縮記帳額

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当事業年度 (平成29年5月31日)
圧縮記帳額	86,269千円	85,489千円
(うち、建物)	64,109	64,109
(うち、機械及び装置)	21,380	21,380
(うち、車両運搬具)	780	-

## 2 担保に供している資産及び担保に係る債務

## 担保に供している資産

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当事業年度 (平成29年5月31日)
建物	1,285,284千円	2,170,306千円
賃貸用資産	1,808,415	1,891,810
土地	2,676,410	3,788,347
投資有価証券	156,800	166,392
自己株式	346,524	346,524
計	6,273,434	8,363,379

## 担保に係る債務

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当事業年度 (平成29年5月31日)
短期借入金	6,317,000千円	6,637,000千円
一年以内返済予定の長期借入金	2,489,054	2,720,321
長期借入金	4,682,326	5,677,095
計	13,488,380	15,034,416

## 3 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当事業年度 (平成29年5月31日)
短期金銭債権	26,879千円	4,860千円
長期金銭債権	6,555	6,555
短期金銭債務	471,389	460,654

## 4 営業貸付金の未経過利息

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当事業年度 (平成29年5月31日)
営業貸付金の未経過利息	3,364千円	2,874千円

(注) 流通事業における消費者ローン(自社ローン)の貸付残高であります。このうちには顧客との契約による未経過利息部分は含まれておりません。

## 5 営業貸付金の消費者ローン(自社ローン)業務における貸付金は、契約上規定された条件に違反がない限り一定の限度まで貸し付けることを約する契約によるものであり、これらの契約に係る貸付未実行残高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当事業年度 (平成29年5月31日)
貸付限度額	2,232,900千円	2,045,140千円
当期末貸付残高	985,592	958,862
貸付未実行残高(差引額)	1,247,307	1,086,277

## 6 資産の保有目的の変更

保有目的の変更により、固定資産の一部を販売用不動産へ振替いたしました。その内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当事業年度 (平成29年5月31日)
建物	25,882千円	- 千円
構築物	0	-
借地権	13,920	-
計	39,802	-

## 7 偶発債務

## (1) 保証債務

他の会社の金融機関からの借入債務に対し、保証を行っております。

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当事業年度 (平成29年5月31日)
(株)テーオー総合サービス	40,000千円	50,000千円
函館日産自動車(株)	210,000	210,000
北見日産自動車(株)	180,000	190,000
計	430,000	450,000

## (2) 工事完成保証

次の関係会社について、工事請負契約に係る工事完成保証を行っております。

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当事業年度 (平成29年5月31日)
小泉建設(株)	1,080,000千円	- 千円

## (3) 業務協定に係る保証

次の関係会社について、業務協定に係るリース債務残高に対し保証を行っております。

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当事業年度 (平成29年5月31日)
(株)テーオー総合サービス	652,060千円	570,666千円

## 8 受取手形割引高

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当事業年度 (平成29年5月31日)
受取手形割引高	1,618,699千円	1,418,101千円

## (損益計算書関係)

## 1 割賦売上繰延利益

前事業年度(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

重要な会計方針に記載しておりますように流通事業の割賦販売による販売利益は割賦基準(履行期日到来基準)により計上しております。

当事業年度(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)

重要な会計方針に記載しておりますように流通事業の割賦販売による販売利益は割賦基準(履行期日到来基準)により計上しております。

## 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当事業年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
貸倒引当金繰入額	42,913千円	15,410千円
ポイント引当金繰入額	66,508	59,912
給料及び手当	1,965,573	2,005,139
役員退職慰労引当金繰入額	20,001	17,714
退職給付費用	108,482	134,205
減価償却費	368,818	429,826
おおよその割合		
販売費	6.9%	6.9%
一般管理費	93.1	93.1

## 3 固定資産売却益は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当事業年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
車両運搬具	1,058千円	510千円
賃貸用資産	20,224	2,298
土地	2,796	9,159
計	24,080	11,967

## 4 固定資産売却損は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当事業年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
賃貸用資産	465千円	3,180千円
土地	-	238
計	465	3,419

## 5 固定資産除却損は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当事業年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
建物	604千円	22,651千円
機械及び装置	-	0
車両運搬具	5	0
工具、器具及び備品	160	480
賃貸用資産	707	3,309
計	1,477	26,442

## 6 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)	当事業年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)
営業取引による取引高		
売上高	35,837千円	73,630千円
仕入高	11,349	17,873
販売費及び一般管理費	29,572	20,728
営業取引以外の取引による取引高	159,951	82,400

## (有価証券関係)

関係会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式1,066,483千円、前事業年度の貸借対照表計上額は関係会社株式766,483千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当事業年度 (平成29年5月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	124,173千円	122,945千円
減価償却費	189,063	226,925
たな卸資産評価損	598,313	578,050
退職給付引当金	121,485	136,207
ポイント引当金	20,418	18,391
未払事業税	1,203	3,923
有価証券評価損	20,112	28,834
減損損失	262,099	281,104
資産除去債務	20,502	46,406
繰越欠損金	120,055	162,368
その他	81,142	58,881
繰延税金資産小計	1,558,571	1,664,039
評価性引当金	1,185,803	1,589,802
繰延税金資産合計	372,768	74,237
繰延税金負債		
その他	11,905	35,221
繰延税金負債合計	11,905	35,221
繰延税金資産の純額	360,862	39,015

繰延税金資産、繰延税金負債は次の項目に含まれております。

流動資産	95,930千円	67,522千円
固定資産	264,931	-
固定負債	-	28,506

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年5月31日)	当事業年度 (平成29年5月31日)
法定実効税率	32.8%	当事業年度は税引前当期純損失を計上しているため、注記を省略しております。
(調整)		
受取配当金益金不算入	68.0	
交際費等永久に損金に算入されない項目	34.2	
住民税均等割	28.0	
税額控除	9.1	
評価性引当額の増減額	7.6	
税率変更による繰延税金資産の増減	23.9	
その他	0.6	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	34.8	

(重要な後発事象)

(会社分割による持株会社体制への移行)

当社は、平成29年6月1日をもちまして、会社分割の方式により持株会社体制へ移行しました。

なお、詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項 (重要な後発事象)」に記載の通りであります。

## 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

区分	資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	当期末残高 (千円)	減価償却累計額 (千円)
有形固定 資産	建物	10,911,998	1,145,174	157,337 (67,265)	299,538	11,899,835	8,202,406
	構築物	606,021	47,206	8,560 (6,540)	20,916	644,667	555,641
	機械及び装置	1,236,300	3,553	21,543 (18,382)	17,297	1,218,309	1,183,906
	車両運搬具	77,190	11,646	11,725 (158)	10,655	77,112	56,377
	工具、器具及び備品	609,262	18,869	28,966 (434)	15,650	599,165	562,352
	賃貸用資産	6,977,434	146,738	343,202	86,594	6,780,969	3,227,273
	土地	4,189,181	316,755	46,185 (45,865)	-	4,459,751	-
	リース資産	699,408	176,515	106,920 (12,367)	113,653	769,003	341,048
	建設仮勘定	213,947	-	200,987	-	12,960	-
	計	25,520,746	1,866,459	925,429 (151,014)	564,305	26,461,775	14,129,006
無形固定 資産	借地権	23,000	-	-	-	23,000	-
	電話加入権	18,194	-	-	-	18,194	-
	リース資産	-	249,160	-	35,392	249,160	35,392
	その他	42,831	27,230	16,820	8,344	53,242	16,829
	計	84,025	276,391	16,820	43,736	343,597	52,221

(注) 1. 当期首残高または当期末残高については、取得価額により記載しております。

2. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	テーオースポーツクラブ	503,667千円
	イエローグローブ斜里店	413,528千円
	ドコモショップ函館本通店	120,108千円
土地	テーオースポーツクラブ	303,515千円

3. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

賃貸用資産の減少額のうち303,515千円は使用目的の変更による土地への振替額であります。

建設仮勘定の減少額200,987千円は建物への振替額であります。

4. 有形固定資産の「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。



## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	407,045	398,094	407,045	398,094
完成工事補償引当金	9,603	8,630	9,603	8,630
利息返還損失引当金	46,456	-	18,951	27,504
ポイント引当金	66,508	59,912	66,508	59,912
役員退職慰労引当金	39,644	17,714	7,851	49,507

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

## (3) 【その他】

決算日後の状況

特記事項はありません。

訴訟

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	6月1日から5月31日まで
定時株主総会	8月中
基準日	5月31日
剰余金の配当の基準日	11月30日 5月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 公告掲載URL <a href="https://tohd.co.jp/">https://tohd.co.jp/</a>
株主に対する特典	該当する事項はありません。
(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに取得請求権付株式の取得を請求する権利以外の権利を有していません。	

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第62期）（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）平成28年8月26日北海道財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及び添付書類

平成28年8月26日北海道財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第63期第1四半期）（自 平成28年6月1日 至 平成28年8月31日）平成28年10月14日北海道財務局長に提出

（第63期第2四半期）（自 平成28年9月1日 至 平成28年11月30日）平成29年1月13日北海道財務局長に提出

（第63期第3四半期）（自 平成28年12月1日 至 平成29年2月28日）平成29年4月14日北海道財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成28年9月1日北海道財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書であります。

平成29年8月1日北海道財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条2項第9号の4の規定に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成29年 8月24日

株式会社テーオーホールディングス

取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任  
社員 公認会計士 板垣 博靖 印  
業務執行社員

指定有限責任  
社員 公認会計士 柴本 岳志 印  
業務執行社員

## &lt;財務諸表監査&gt;

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社テーオーホールディングス（旧会社名 株式会社テーオー小笠原）の平成28年6月1日から平成29年5月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

## 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社テーオーホールディングス（旧会社名 株式会社テーオー小笠原）及び連結子会社の平成29年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社テーオーホールディングス（旧会社名 株式会社テーオー小笠原）の平成29年5月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社テーオーホールディングス（旧会社名 株式会社テーオー小笠原）が平成29年5月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

（注）1．上記は監査報告書原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成29年8月24日

株式会社テーオーホールディングス

取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任  
社員 公認会計士 板垣 博靖 印  
業務執行社員

指定有限責任  
社員 公認会計士 柴本 岳志 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社テーオーホールディングス（旧会社名 株式会社テーオー小笠原）の平成28年6月1日から平成29年5月31日までの第63期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社テーオーホールディングス（旧会社名 株式会社テーオー小笠原）の平成29年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。